

令和8年度
(2026年度)

教 育 計 画

滋賀県立総合保健専門学校
看護専門課程 看護学科

目 次

I. 教育目的・目標（看護専門課程 看護学科）	1
1. 教育理念	1
2. 教育目的	1
3. 教育目標	1
II. 看護の主要概念	2
III. 分野・領域の考え方	3
IV. 教育課程の構造図	6
V. 授業科目・授業時間数および単位数	7
VI. 実習要綱	
1. 授業科目（臨地実習）	9
2. 実習計画表	10
3. 実習施設	11
VII. 行事計画	13
VIII. 授業科目内容	
1. 基礎分野	14
2. 専門基礎分野	29
3. 専門分野	52
基礎看護学	55
地域・在宅看護論	71
成人看護学	77
老年看護学	84
小児看護学	89
母性看護学	94
精神看護学	99
看護の統合と実践	105
臨地実習	110
IX. 事例のマトリックス	122
X. 看護技術のマトリックス	124

I. 教育目的・目標（看護専門課程 看護学科）

1. 教育理念

生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした看護を探究し、実践できる専門職業人を育成する。

2. 教育目的

看護師として必要な基礎的知識・技術と態度を育み、生命の尊厳および人権の尊重を基盤に、対象に応じた看護を実践し、地域の人々に貢献し得る人材を育成する。

3. 教育目標

- 1) 看護の対象に関心を持ち、人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を身につける。
- 2) 良好な人間関係を形成し、看護を実践するためのコミュニケーション能力を身につける。
- 3) 科学的根拠に基づき、対象や状況の変化に応じた看護を判断し、実践するための基礎的能力を身につける。
- 4) 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和に関わる看護を、多様な対象・多様な場において実践するための基礎的能力を身につける。
- 5) 看護師としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践するための能力を身につける。
- 6) 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割と他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら看護を提供するための基礎的能力を身につける。
- 7) 看護師として自己を見つめ、創造的に看護を探究し続ける能力を身につける。

Ⅱ. 看護の主要概念

人間

- ・人間とは、身体的、精神的、社会的側面を統合した存在である。
- ・人間とは、唯一無二の存在であり、基本的権利を有し、尊重されるべき存在である。
- ・人間とは、自然治癒力を持ち、環境に適応する力を持つ存在である。
- ・人間とは、自己実現に向けて成長・発達し、変化し続ける存在である。
- ・人間とは、他者との相互関係の中で支えあい、生活を営む存在である。

環境

- ・環境とは、恒常性を維持する内部環境と、自然・社会・文化的側面をもつ外部環境がある。
- ・環境とは、人間と相互に作用し合い、健康と生活に影響を及ぼすものである。
- ・環境とは、変化し続けるものである。

健康

- ・健康とは、疾病の有無に関わらず、身体的、精神的にバランスがとれた状態である。
- ・健康とは、生活や環境の影響をうけるものである。
- ・健康とは、生活の質を高めて、その人らしく生きていくことである。
- ・健康とは、自らが保ち、守られるべきものである。

看護

- ・看護とは、あらゆる発達段階における、様々な健康状態にある人々を対象とする。
- ・看護とは、健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、その人らしくあるように継続的に関わることである。
- ・看護とは、専門的知識・技術を用いて、科学的根拠に基づいて行う実践的活動である。
- ・看護とは、状況に応じて、対象の持てる力を最大限に発揮できるように、働きかけるものである。
- ・看護とは、対象との相互関係の中で成り立つものである。
- ・看護とは、保健・医療・福祉チームの一員として、多職種と連携・協働しながら、多様な場において人々の健康と生活を支えるものである。

Ⅲ. 分野・領域の考え方

基礎分野

基礎分野は、看護師としてだけでなく、社会人として必要な能力を育むことを意図して構成している。科学的思考につながる科目として、「物理学」では看護につながる物理的現象について理解する。また、「論理的思考」では論理的に物事を考える素地を育み、自己の考えを表現する方法を学ぶ。「情報科学」では、現代社会に必要な情報通信技術（ICT）の基礎と情報の活用について学ぶ。「環境人間学」では、地球規模から滋賀県至る環境について学び、フィールドワークを通して感性を磨くとともに、学生の自由で主体的な行動を育む。

「社会学」「教育学」「心理学」「経済学」では、人間と生活や社会について幅広く学ぶ。また、「人間関係論」では人間関係の希薄化が進む現代において、円滑な人間関係を築き、看護に必要なカウンセリング理論と技法を学ぶ。

「倫理学」と「哲学対話」では、倫理学の基礎や多様な価値観について理解し、自己の思考を深化させる基礎的な能力を養う。

「英語」では医療現場における英会話を中心とし、看護師として国際化へ対応しうる能力を養う。

専門基礎分野

専門基礎分野は、看護を実践するために不可欠な幅広い基礎的知識や、現代医療のあり方について学ぶ。

「解剖生理学」「生化学」「栄養学」「臨床薬理学」「臨床検査」「病理学」「病態生理学」「疾病・治療論」では、人体の構造と機能や、疾病の成り立ちと回復の促進について理解し、臨床判断の素地を養う。

「公衆衛生学」「健康支援論」「リハビリテーション論」「社会保障制度」「総合医療論」「関係法規」で健康状態に応じて社会資源を活用できるよう支援し、専門職業人として活動を継続するために必要な基礎的能力を養う。

基礎看護学

看護を取り巻く社会情勢は急速に変化しており、保健・医療・福祉のいずれの場においても看護師の役割は大きくなっている。看護活動の場は、医療機関に限らず在宅や施設へ拡大しており、多様で複雑な対象に応じた看護を実践する能力が求められている。

基礎看護学は他の専門科目の土台となり、看護の概念と看護に必要な知識・技術・態度を学び、多様な対象、多様な場において看護を実践するための基礎を学ぶ。

科目構成は「看護学概論」において看護の基礎となる概念を学ぶ。また、あらゆる看護場面に共通して必要となる技術を「共通基本技術」、日常生活を支える技術を「日常生活援助技術」、診療場面に必要となる技術を「診療に伴う技術」とする。その他、臨床看護につなげる科目として「臨床看護総論」「フィジカルアセスメント」を構成している。

地域・在宅看護論

少子・高齢化社会や疾病構造の変化など、社会的背景をふまえた医療提供体制の整備や地域包括ケアシステムが推進されている。地域での医療は、地域で暮らす人々と保健医療従事者とのパートナーシップにより展開され、看護師も地域でその役割を発揮することが求められている。このような背景をふまえ、第5次カリキュラム改正では、地域における看護実践を拡充する目的で「在宅看護論」から「地域・在宅看護論」に名称変更された。

地域・在宅看護論では、地域で暮らす人々の健康の保持・増進や疾病の予防に向けての看護、病気や障害をもちながら地域で生活する人と家族の看護を学ぶ。看護活動の場は多様で、看護の対象も様々である。また、対象の健康レベルの変化に伴い、看護の場が移行することから、継続看護が不可欠となる。人々のQOLの維持・向上を目指し、多職種や多機関と連携しながら、地域の人々の健康や暮らしを支えるための看護を学ぶ。

成人看護学

少子高齢化が進み、労働人口の減少が社会的な問題となり久しい。家族・地域・社会のあり方の変容や働き方の多様化など、成人を取り巻く環境は常に変化している。

成人期の対象は、健康観・生活観・人生観など個々の価値観を明らかにし、生活習慣や生活様式を確立している。また、家庭・地域・社会において多くの役割を担い、社会的責任が大きい。身体面では、一生で最も高い機能を有する時期から、徐々に加齢現象が顕在化し、生活習慣病を発症しやすい。また、心理面では、ストレスによる健康問題を生じやすい年代である。このような成人期の特徴をふまえ、健康の保持・増進や健康障害を抱えながら社会生活を営むことができるように、対象者と家族を支える看護を学ぶ。

老年看護学

少子化や単独世帯が増加し、介護者不足や孤独死などが社会的な問題となっている。健康寿命に注目し、その人らしく生き活きとした生活を送り、人生の最期を迎えることができるような取り組みが重要視されている。

本校では、老年看護学を「高齢者看護学」として、老いる年代として捉えるのではなく、成人期の延長として豊かな生活体験をもち、人生の完結に向かう年代であると考え『高齢者』という表現を用いることとした。

高齢者看護学では、加齢現象について理解を深めたいうで、社会における施策、生活を支える看護、健康寿命を延ばす看護について学ぶ。また、老年期は個性が大きく、多様な生き方があることを理解し、人として尊重し、最後の時期をその人らしく過ごすための支援について、家族を含めた看護を実践できる能力を養う。

小児看護学

子どもや家族のあり様は社会の変化とともに多様化し、生活習慣病、こころの問題や自殺、親の育児不安や児童虐待など、子どもに関わる問題は複雑化している。

小児看護学では、子どもは環境に影響をうけながら成長・発達し続ける存在としてとらえる。子どもの権利を擁護し、健やかな発育を支えるための仕組みを理解し、成長・発達を促す看護を学ぶ。

また、あらゆる健康状態、あらゆる場における子どもと家族を対象とし、発達段階に応じた看護を学ぶ。

母性看護学

女性の就労・結婚・家族のあり方・出産・子育ての価値観は多様化し、女性のライフスタイルは多岐にわたっている。本校では母性看護学を「ウィメンズヘルス看護」とし、周産期の女性をイメージする「母性看護学」から、ライフサイクルならびにライフステージにともなう女性の健康を支える看護を総称する表現を用いることとした。

ウィメンズヘルス看護では、女性の一生を通して、性と生殖の問題に関わり、女性の健康の保持・増進を目指したヘルスプロモーションに加えて、子宮および乳房など女性特有の健康障害時の看護について学ぶ。そして、次世代を担う子どもたちの養育に関連して、育児の孤立化や産褥メンタルヘルスなどから母子の地域包括支援について学ぶ。

精神看護学

ストレス社会の中で、心の健康問題は複雑化している。また、基本的な人権をふまえ、精神に障害がある人々の権利や尊厳に対する擁護が重要視されている。精神保健医療福祉は施設中心の医療から、地域支援へと大きく変化し、従来の長期入院患者や、急性期患者に対する治療やケアのみならず看護の役割も多様になっている。

精神看護学では、生涯に渡る心の健康を脅かす様々な要因を理解し、人々の心の健康を支える看護を学ぶ。また、精神障害者についての理解を深め、権利や尊厳を擁護しつつ、その人をとりまく環境にも注目し、障害の有無にかかわらず、その人らしく生きていくための看護を学ぶ。

看護の統合と実践

「看護の統合と実践」は、看護基礎教育と卒業後の実践を結びつけることを意図して構成している。看護実践に必要な臨床判断能力を養うとともに、チーム医療における看護師としてのメンバーシップやリーダーシップの発揮、多職種との連携・協働について理解する。また、現場で起こりやすい医療事故の現状と対策、災害時や世界に視野を広げた看護について学ぶ。さらに、看護の専門性および質の向上について追究する態度を身につけ、科学的根拠に基づいた看護の実践につながる能力を養う。

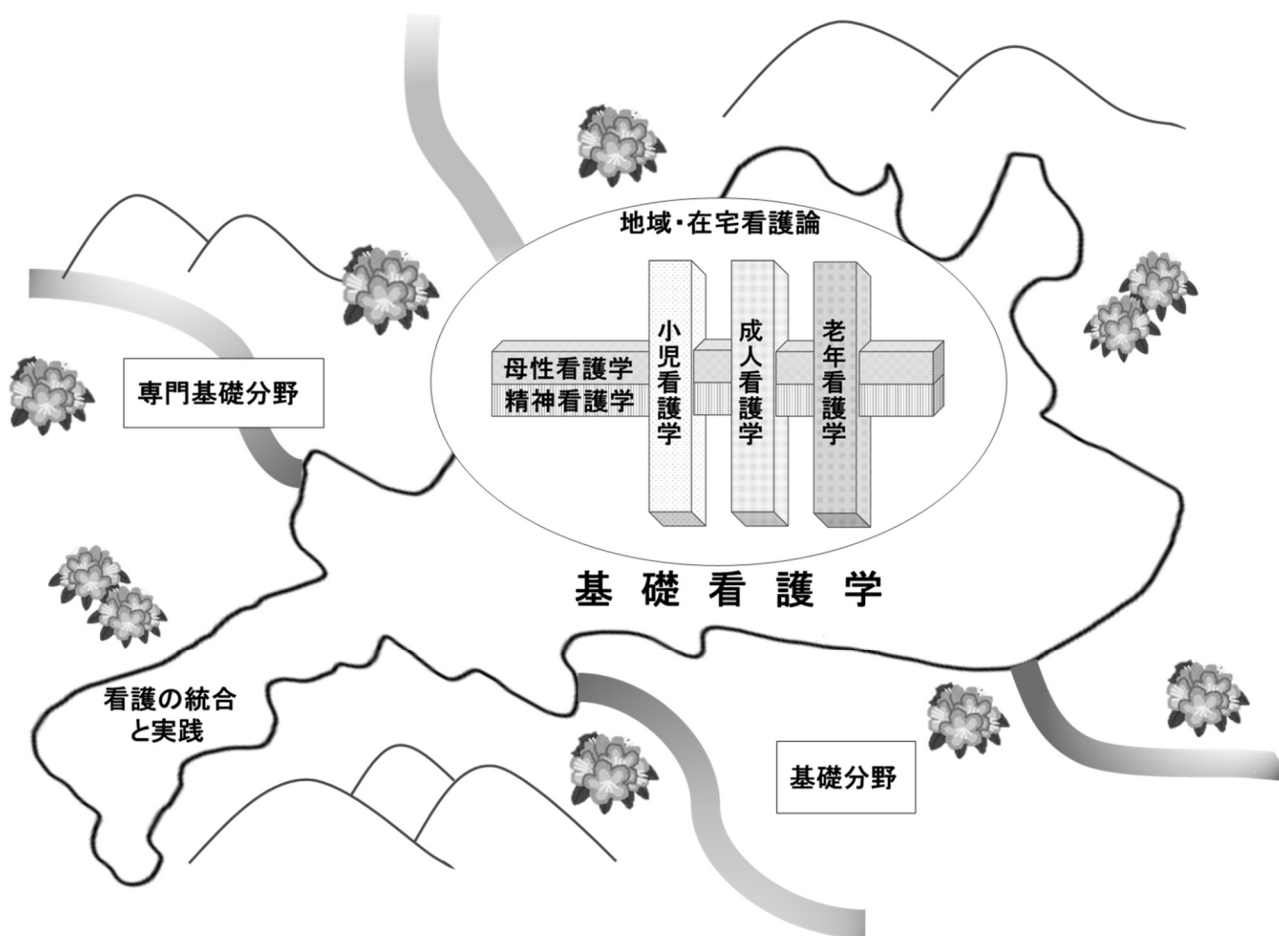
IV. 教育課程の構造図

◆びわ湖

滋賀の象徴であるびわ湖は、山々を源流とする河川が流れ込み、豊かな水量を湛えている。また、日本最大の面積を誇り、北湖と南湖に区分される。人々の暮らしや産業の発展に不可欠な水を提供するだけでなく、全層循環によって豊かな生態系を保っている。人々はびわ湖から豊富な恵みを授かり『Mother Lake』と讃えている。



*全層循環：冬季になり、湖面の水が冷やされることにより、表面部の水と湖底部の水が入れ替わる現象。これにより、湖底部に空気（酸素）が供給され、湖の底部でも生物が生きられる。この現象は『琵琶湖の深呼吸』と呼ばれている。



滋賀の象徴であるびわ湖を『看護の湖』に見立てて構造化した。

びわ湖に流れ込む河川を「基礎分野」や「専門基礎分野」とし、『看護の湖』を潤し育む位置づけとした。

「基礎看護学」は、全層循環が生態系の維持に不可欠であるように、他の看護学の礎となる。また、人間の発達段階にそって「小児看護学」「成人看護学」「老年看護学」が存在する。加えて、全ての人々を対象とし、心の健康に関わる「精神看護学」と、生涯にわたる女性の健康に関わる「母性看護学」を位置づけた。それらを包含するように「地域・在宅看護論」が存在し、地域で生活する全ての人々を対象とする看護を担う。「看護の統合と実践」では、北湖で培った看護の力を統合しつつ南湖へと進み、卒業生の一人ひとりには『石楠花（滋賀県の花）』が花咲くように、看護専門職として社会に貢献する。

V. 授業科目・授業時間数および単位数

授業科目			単位	時間	年次							
					1年次		2年次		3年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	科学的思考の 基盤	物理学	1	30	30							
		論理的思考	1	30	30							
		情報科学Ⅰ（情報リテラシー）	1	15		15						
		情報科学Ⅱ（情報の活用）	1	30			30					
		環境人間学	1	30	30							
		小計	5	135	90	15	0	30	0	0		
	人間と生活・ 社会の理解	社会学	1	30	30							
		人間関係論Ⅰ（人間関係形成の基礎）	1	30	30							
		人間関係論Ⅱ（援助の人間関係の基礎）	1	15			15					
		哲学対話	1	15					15			
		教育学	1	30	30							
		心理学	1	30	30							
		英語	1	30						30		
		経済学	1	15						15		
		倫理学	1	15	15							
		小計	9	210	135	0	0	15	60	0		
		計	14	345	225	15	0	45	60	0		
	専門基礎分野	人体の構造と 機能	解剖生理学Ⅰ（細胞 骨格・筋 皮膚・免疫）	1	30	30						
			解剖生理学Ⅱ（呼吸 血液 循環）	1	30	30						
解剖生理学Ⅲ（消化・吸収 腎・泌尿器 生殖）			1	30	30							
解剖生理学Ⅳ（神経 内分泌 感覚）			1	30	30							
生化学			1	30	30							
		小計	5	150	150	0	0	0	0	0		
疾病の成り立ち と回復の促進		栄養学	1	15		15						
		臨床薬理学	1	30		30						
		臨床検査	1	30		30						
		病理学	1	15	15							
		病態生理学	1	15		15						
		疾病・治療論Ⅰ（筋・骨格器系疾患 消化器疾患）	1	30		30						
		疾病・治療論Ⅱ（呼吸器疾患 循環器疾患）	1	30		30						
		疾病・治療論Ⅲ（脳神経疾患 内分泌疾患）	1	30			30					
		疾病・治療論Ⅳ（血液・造血器疾患 女性生殖器疾患）	1	30			30					
疾病・治療論Ⅴ（腎・泌尿器疾患 アレルギー・免疫疾患）		1	30				30					
疾病・治療論Ⅵ（感覚器疾患）		1	15				15					
		小計	11	270	15	150	60	45	0	0		
健康支援と 社会保障制度		公衆衛生学	1	15						15		
		健康支援論	1	15		15						
		リハビリテーション論	1	15			15					
		社会保障制度	1	30		30						
	総合医療論	1	15						15			
	関係法規	1	15						15			
	小計	6	105	0	45	15	0	45	0			
	計	22	525	165	195	75	45	45	0			
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	30							
		共通基本技術Ⅰ（技術の概念・人間関係成立の技術）	1	15	15							
		共通基本技術Ⅱ（環境・バイタルサイン・感染予防）	1	30	30							
		共通基本技術Ⅲ（看護過程）	1	30		30						
		日常生活援助技術Ⅰ（運動・休息）	1	30	30							
		日常生活援助技術Ⅱ（清潔・衣）	1	30		30						
		日常生活援助技術Ⅲ（食・排泄）	1	30		30						
		診療に伴う技術Ⅰ（診療の補助技術）	1	30		30						
		診療に伴う技術Ⅱ（治療時の看護）	1	30			30					
		臨床看護総論	1	30		30						
		フィジカルアセスメント	1	30			30					
	小計	11	315	105	150	60	0	0	0			

授業科目		単位	時間	年次						
				1年次		2年次		3年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ(地域と暮らし)	1	15	15						
	地域・在宅看護概論Ⅱ(健康と暮らしを支える看護)	1	30			30				
	地域・在宅看護概論Ⅲ(地域での療養を支える看護)	1	15				15			
	地域・在宅看護援助論Ⅰ(健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護)	1	15			15				
	地域・在宅看護援助論Ⅱ(在宅で療養する人と家族の看護)	1	30				30			
	地域・在宅看護援助論Ⅲ(在宅療養を支える援助技術)	1	30				30			
小計		6	135	15	0	45	75	0	0	
成人看護学	成人看護学概論	1	30		30					
	成人看護学援助論Ⅰ(急性期にある対象の看護)	1	30			30				
	成人看護学援助論Ⅱ(回復期にある対象の看護)	1	30			30				
	成人看護学援助論Ⅲ(慢性期にある対象の看護)	1	30				30			
	成人看護学援助論Ⅳ(終末期にある対象の看護)	1	15				15			
	成人看護学援助論Ⅴ(がん治療を受ける対象の看護)	1	15				15			
小計		6	150	0	30	60	60	0	0	
老年看護学	高齢者看護学概論	1	15		15					
	高齢者看護学援助論Ⅰ(健康支援と日常生活援助)	1	30			30				
	高齢者看護学援助論Ⅱ(認知症と終末期の看護)	1	30				30			
	高齢者看護学援助論Ⅲ(検査・治療に伴う看護)	1	30				30			
小計		4	105	0	15	30	60	0	0	
小児看護学	小児看護学概論Ⅰ(小児看護の役割)	1	15		15					
	小児看護学概論Ⅱ(子どもの成長と発達)	1	30			30				
	小児看護学援助論Ⅰ(疾患・障害のある子どもの看護)	1	30			30				
	小児看護学援助論Ⅱ(健康の段階・発達段階に応じた看護)	1	30				30			
小計		4	105	0	15	60	30	0	0	
母性看護学	ウィメンズヘルス看護概論Ⅰ(女性の健康と看護)	1	15		15					
	ウィメンズヘルス看護概論Ⅱ(女性のライフサイクルと看護)	1	30			30				
	ウィメンズヘルス看護援助論Ⅰ(妊娠期・分娩期の看護)	1	30			30				
	ウィメンズヘルス看護援助論Ⅱ(産褥期・新生児期の看護)	1	30				30			
小計		4	105	0	15	60	30	0	0	
精神看護学	精神看護学概論Ⅰ(精神看護の概念と健康支援)	1	30		30					
	精神看護学概論Ⅱ(精神保健福祉活動の動向)	1	15			15				
	精神看護学援助論Ⅰ(疾患の理解と看護の特徴)	1	30			30				
	精神看護学援助論Ⅱ(疾病の経過に応じた看護)	1	30				30			
小計		4	105	0	30	45	30	0	0	
看護の統合と実践	総合看護	1	30					30		
	看護医療安全	1	30				30			
	災害看護	1	30					30		
	臨床看護実践	1	15					15		
小計		4	105	0	0	0	30	75	0	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ(看護を知る実習)	1	45	45						
	基礎看護学実習Ⅱ(入院生活をおくる対象の理解と日常生活援助)	2	90		90					
	基礎看護学実習Ⅲ(看護の展開)	2	90			90				
	地域・在宅看護論実習Ⅰ(地域で生活する人々の健康支援)	2	60			60				
	地域・在宅看護論実習Ⅱ(地域で生活・療養する人と家族の看護)	2	90						90	
	成人・高齢者看護学実習Ⅰ(成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえた看護)	2	90				90			
	成人・高齢者看護学実習Ⅱ(状況の変化に合わせた看護)	2	90						90	
	小児看護学実習	2	90						90	
	ウィメンズヘルス看護実習	2	90						90	
	精神看護学実習	2	90						90	
	統合実習Ⅰ(臨床判断能力)	2	90						90	
	統合実習Ⅱ(看護の統合)	2	90						90	
小計		23	1005	45	90	150	90	270	360	
計		66	2130	165	345	510	405	345	360	
合計		102	3000	555 555		585 495		450 360		
				1110		1080		810		
				41単位		38単位		23単位		

VI. 実 習 要 綱

1. 授業科目（臨地実習）

授業科目		単位	時間	時期	施設	目的	
専 門 分 野	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ (看護を知る実習)	1	45	1年前期	病院 訪問看護 ステーション	様々な場における看護活動の実際を学ぶ。
		基礎看護学実習Ⅱ (入院生活をおくる対象の理解と日常生活援助)	2	90	1年後期	病院	入院生活をおくる対象を理解し、日常生活援助を通して看護を実践するための基礎的能力を養う。
		基礎看護学実習Ⅲ (看護の展開)	2	90	2年前期	病院	健康障害をもつ対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ (地域で生活する人々の健康支援)	2	60	2年前期	介護老人保健施設 介護老人福祉施設 看護小規模多機能 型居宅介護事業所 保育園 こども園	地域で生活する人々への健康支援を学ぶ。
		地域・在宅看護論実習Ⅱ (地域で生活・療養する人と家族の看護)	2	90	3年	訪問看護 ステーション 地域包括 支援センター	地域包括支援センターの活動や訪問看護の実際を理解し、地域で生活する人々の看護を実践するための基礎的能力を養う。
	成人・老年看護学	成人・高齢者看護学 実習Ⅰ (成人期・老年期の 特徴と健康障害を ふまえた看護)	2	90	2年後期	病院	成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、看護を実践するための基礎的能力を養う。
		成人・高齢者看護学 実習Ⅱ (状況の変化に合わせた看護)	2	90	3年前期	病院	成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、状況の変化に合わせた看護を実践するための基礎的能力を養う。
	小児看護学	小児看護学実習	2	90	3年	特別支援学校 病院	子どもとその家族を理解し、小児看護を実践するための基礎的能力を養う。
	母性看護学	ウイメンズヘルス 看護実習	2	90	3年	病院	周産期を中心とした、女性の健康を支える看護を実践するための基礎的能力を養う。
	精神看護学	精神看護学実習	2	90	3年	病院 社会復帰施設	精神に障害のある対象の特徴を理解し、看護を実践するための基礎的能力を養う。
	看護の統合と実践	統合実習Ⅰ (臨床判断能力)	2	90	3年後期	病院	対象の状態・状況に応じた臨床判断に基づく看護を実践するための基礎的能力を養う。
		統合実習Ⅱ (看護の統合)	2	90	3年後期	病院	チームの一員として協働し、臨床看護を実践するための能力を養う。

2. 実習計画表

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
1年					基礎看護学実習 I						基礎看護学実習 II			
						夏						冬		
2年					地域・在宅看護論実習 I	基礎看護学実習 III						成人・高齢者看護学実習 I		
						期						期		
3年	成人・高齢者看護学実習	小児看護学実習	精神看護学実習	成人・高齢者看護学実習	小児看護学実習	精神看護学実習	成人・高齢者看護学実習	小児看護学実習	精神看護学実習	統合実習 II				
	ウイメン・在宅ヘルス看護実習 II	ウイメン・在宅ヘルス看護実習 II	ウイメン・在宅ヘルス看護実習 II	ウイメン・在宅ヘルス看護実習 II	ウイメン・在宅ヘルス看護実習 II	ウイメン・在宅ヘルス看護実習 II	ウイメン・在宅ヘルス看護実習 II	ウイメン・在宅ヘルス看護実習 II	ウイメン・在宅ヘルス看護実習 II	ウイメン・在宅ヘルス看護実習 II	暇			
					暇						暇			

3. 実習施設

病 院		訪問看護ステーション	
1	淡海医療センター	1	市立野洲病院訪問看護ステーション
2	近江八幡市立総合医療センター	2	公益社団法人滋賀県看護協会 在宅ケアセンターみのり
3	公立甲賀病院		
4	湖南病院	3	甲賀市社協訪問看護ステーション
5	済生会滋賀県病院	4	訪問看護ステーションなかさと
6	済生会守山市民病院	5	訪問看護なかさとCCS
7	滋賀医科大学医学部附属病院	6	訪問看護なかさとプラス
8	滋賀県立精神医療センター	7	訪問看護ステーションレインボウ
9	滋賀県立総合病院	8	訪問看護ステーションヴォーリス
10	市立野洲病院	9	守山市社会福祉協議会訪問看護事業所
11	高島市民病院	10	友仁訪問看護ステーションすずらん
12	東近江総合医療センター	精神障害者福祉施設	
13	ヴォーリス記念病院	1	社会福祉法人こなんSSN 就労継続支援B型事業所 こなんSSN
特別支援学校			
1	滋賀県立草津養護学校	2	社会福祉法人こなんSSN 就労継続支援B型事業所 シエスタ
2	滋賀県立野洲養護学校		
介護老人保健施設		看護小規模多機能型居宅介護事業所	
1	アロフェンテ彦根	1	看護小規模多機能型居宅介護サービスめぐり
2	寿々はうす	2	ナーシングホームすずらん
3	ケアタウン南草津	3	なでしこ草津
4	ケアポート栗東	4	風蝶木の実 ケイパハウス
5	滋賀病院附属介護老人保健施設	5	笑みの家ひだまり
介護老人福祉施設		6	友愛の家 ヴォーリス
1	悠紀の里		

(施設名称：五十音順)

子ども園・保育園			
1	カナリヤ保育園	6	ふるたか虹のはし保育園
2	こだまふれんど保育園	7	守山保育園
3	滋賀短期大学附属 すみれ保育園	8	吉身保育園
4	大宝カナリヤ保育園	9	栗東くじら保育園
5	浮気保育園		

(施設名称：五十音順)

Ⅶ. 行事計画

月	1年	2年	3年
4	入学式 入学時研修 胸部レントゲン 学科親睦会	始業式 胸部レントゲン 学科親睦会	始業式 胸部レントゲン 学科親睦会
5			
6	健康診断 特別講義（人権研修）	健康診断	健康診断
7	特別講義 大掃除	特別講義 大掃除	特別講義 多職種連携学習会 大掃除
8	夏期休暇	夏期休暇	夏期休暇
9			
10	防災訓練	防災訓練 2年次研修	防災訓練
11			
12	シンポジウム 大掃除	シンポジウム 大掃除	シンポジウム 大掃除
1	冬期休暇	冬期休暇	冬期休暇
2			(看護師国家試験)
3	大掃除 春期休暇	大掃除 春期休暇	大掃除 卒業式

VIII. 授業科目内容

1. 基礎分野

授 業 科 目		単 位	時 間
科学的思考の基盤	物理学	1	30
	論理的思考	1	30
	情報科学Ⅰ（情報リテラシー）	1	15
	情報科学Ⅱ（情報の活用）	1	30
	環境人間学	1	30
人間と生活・社会の理解	社会学	1	30
	人間関係論Ⅰ（人間関係形成の基礎）	1	30
	人間関係論Ⅱ（援助的人間関係の基礎）	1	15
	哲学対話	1	15
	教育学	1	30
	心理学	1	30
	英語	1	30
	経済学	1	15
	倫理学	1	15
小 計		14	345

分野	基礎分野	授業科目	論理的思考	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	論理的思考の基礎を理解し、表現する方法について学ぶ。				
授業のキーワード	論理的思考 批判的思考 文章表現 討議法				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 論理的思考と批判的思考について理解できる。	(1) 論理的思考	①論理的思考（ロジカルシンキング）とは ②論理的思考を鍛えるための方法 ・言葉を具体的にする ・本質的な問いとは ・主張と根拠 ・自己の思考の傾向を知る ③演繹法と推論 ④帰納法と推論	講義 演習	
		(2) 批判的思考	①批判的思考（クリティカルシンキング）とは ②批判的思考の基本姿勢 ・目的は何かを常に意識する ・自他に思考の癖があることを前提に考える ・問い続ける ③批判的思考の方法 ・ルールを明確にする ・現状を分析する ・課題を見つける ・解決のためのアクションを考える	講義 演習	
	2. 論理的な文章表現について理解できる。	(1) 文章表現	①文章表現の基礎 ・具体的に伝える ・事実と意見 ・段落 ・トピックセンテンス ・引用 ・構成 ・要約 ②文章表現の応用	講義 演習	
	3. 討議法について理解できる。	(1) 討議法	①討議とは ②討議法の種類 ・KJ法 ・ブレインストーミング ③論理的な発言の仕方	講義 演習	
テキスト	「伝える伝わる文章表現」 知的シゲキ books				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	基礎分野	授業科目	情報科学 I (情報リテラシー)	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実務 経 験	
授業の目的	情報を安全に活用するために、情報の扱い方とセキュリティやモラルについて学ぶ。				
授業のキーワード	情報科学 ICT セキュリティ 法律 リスク社会				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 情報化社会の基礎について理解できる。	(1)情報 (2)情報化社会 (3)情報通信技術 (ICT) の活用	①情報とは ②情報とデータ ③情報の特性 ①インターネット ②コミュニケーションツール ・メール ・コミュニケーションツール ・オンラインコミュニティ ①IT・ICT・IoT ②生成AI ③コンピューターとのつきあいかた ④コンピューターとネットワーク	講義 講義 講義	
	2. 情報セキュリティと情報モラルについて理解できる。	(1)情報とセキュリティ (2)情報と法律	①リスク社会における不安と信頼 ②情報の3要素 ③脆弱性とその対策 ①情報化社会の課題 ②著作権 ③個人情報保護法	講義 講義	
	3. 情報処理の基礎について理解できる。	(1)ソフトウェア活用の基礎	①タッチタイピングの基礎 ②Word 機能の活用と基礎 ③Power Point 機能の活用と基礎	講義 演習	
テキスト	「基礎からわかる情報リテラシー」 技術評論社				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	基礎分野	授業科目	情報科学Ⅱ (情報の活用)	担当 講師	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1 単位 30 時間	実務 経験	
授業の目的	データや情報を活用する方法について学ぶ。				
授業のキーワード	調査 統計 数値分析 ソフトウェアの活用				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 統計学を学ぶ意義、社会調査の必要性を理解できる。	(1) 統計学とは	①社会調査の必要性	講義	
		(2) 現代社会における情報科学	①わたしたちの現代社会 ②数字で社会を捉える	講義	
		(3) 数値分析	①度数分布表 ②分布の特性 ③クロス集計と属性相関 ④散布図と相関係数 ⑤多重クロス表と偏相関係数	講義	
	2. 情報処理について理解できる。	(1) コンピューターの基礎知識とマナー	①コンピューターとのつきあいかた	講義 演習	
		(2) ソフトウェアの活用	①Word 機能の活用 ②Excel 機能の活用 ③PowerPoint 機能の活用 ④クラウドの活用	講義 演習	
テキスト	「基礎からわかる情報リテラシー」 技術評論社 「数学嫌いのための社会統計学」 法律文化社				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	基礎分野	授業科目	環境人間学	担当 講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	人々を取り巻く環境について理解し、環境保全や環境問題について学ぶ。				
授業のキーワード	地球環境	滋賀の環境	環境問題	環境保全	
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 人々を取り巻く環境について理解できる。	(1) 環境	①環境とは ②地球環境 ③滋賀の環境	講義	
		(2) 環境と人間	①環境と人間の相互作用	講義	
	2. 環境問題について理解できる。	(1) 環境問題の歴史	①高度経済成長と大量消費 ②公害 (大気 水 音 化学物質)	講義	
		(2) 現代社会が抱える環境問題	①地球温暖化 ②気候変動 ③オゾン層破壊 ④砂漠化 ⑤大気・水・土壌の汚染 ⑥海洋ゴミ問題 ⑦放射性物質の廃棄問題 ⑧自然災害	講義	
	3. 環境保全と環境問題克服のための取り組みについて理解できる。	(1) 環境保全と環境問題克服のための取り組み	①世界の取り組み ②日本の取り組み ③滋賀県の取り組み	講義	
テキスト	指定なし				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	基礎分野	授業科目	社会学	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	人々を取り巻く社会を多方面から捉え、多様な文化について学ぶ。				
授業のキーワード	人間 社会 地域 文化 生活				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 人々を取り巻く社会について理解できる。	(1)個人	①自己アイデンティティ ②ジェンダーアイデンティティ ③社会化	講義	
		(2)家族	①家族とは ②家族の機能と変化	講義	
		(3)コミュニティ	①近隣集団 ②地域コミュニティ (都道府県も含む) ③職場 ④ネットワーク・コミュニティ	講義	
		(4) ボランティア アソシエーション	①ボランティアアソシエーションとは ②ボランティア・グループ ③セルフヘルプ・グループ	講義	
		(5) 国家と様々な集団との関係	①国家と個人 ②国家と家族 ③国家とコミュニティ	講義	
	2. 多様な文化について理解できる。	(1) 多様な文化	①文化とは ②文化の形成 ③多様な文化	講義	
テキスト	指定なし				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	基礎分野	授業科目	人間関係論 I (人間関係形成の基礎)	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	人間関係の基礎を理解し、人間関係成立の理論と技法について学ぶ。				
授業のキーワード	人間関係 自己認知 他者認知 コミュニケーション コーチング アサーティブコミュニケーション				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 人間関係の基礎について理解できる。	(1) 人間関係における自己と他者 (2) 対人関係と役割 (3) 態度と対人行動 (4) 集団と個人	①人間関係とは ②自己認知 ③対人認知 ①対人関係の成立 ②対人関係の維持と崩壊 ③対人葛藤と対処 ④社会的役割 ①態度と態度変化 ②説得的コミュニケーション ③攻撃 ④援助 ①集団の特性 ②集団での課題遂行 ③集団での問題解決と意思決定 ④リーダーシップ	講義 講義 講義 講義	
	2. 人間関係成立の理論と技法について理解できる。	(1) コミュニケーション (2) コーチング (3) アサーティブコミュニケーション	①コミュニケーションとは ②対人コミュニケーション ③マスコミュニケーション ④ICTの発達とコミュニケーション ①コーチングの理論とスキル ②看護への応用 ①アサーションの理論とスキル ②看護への応用	講義 演習 講義 演習 講義 演習	
テキスト	「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	基礎分野	授業科目	人間関係論Ⅱ (援助的人間関係の基礎)	担当 講師	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的	カウンセリングの基礎を理解し、援助的コミュニケーションについて学ぶ。				
授業のキーワード	カウンセリング 援助的コミュニケーション 傾聴 マイクロカウンセリング				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. カウンセリングの基礎について理解できる。	(1) カウンセリングの基礎	① カウンセリング意義 ② カウンセリングの理論 ③ カウンセリングの基本的態度	講義 演習	
	2. 援助的コミュニケーションについて理解できる。	(1) 援助的コミュニケーション	① 相手の話をきくこと ② 技法 (マイクロカウンセリング)	講義 演習	
テキスト	「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	基礎分野	授業科目	哲学対話	担当 講師	
開始 年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的	哲学対話の概要を理解し、哲学対話を通して他者理解や自己の思考を深化させる。				
授業のキーワード	哲学対話 他者理解 思考の深化				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 哲学対話の概要について理解できる。	(1) 哲学対話の概要	①哲学対話とは ②会話、討議、対話の違い ③対話の意義	講義	
		(2) 哲学対話の方法	①対話のルール ②対話の進め方	講義	
	2. 哲学対話の実践を通して、他者理解や自己の思考を深化できる。	(1) 哲学対話の実践	①問い（テーマ）の設定 ②言葉の意味の明確化 ③結論と論拠の理解 ④対話実践を通じた他者の思考と、自己の思考の深化	講義 演習	
テキスト	指定なし				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	基礎分野	授業科目	教育学	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	教育の意義を理解し、教育の現状について学ぶ。				
授業のキーワード	人間 教育 生涯学習				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 教育の意義が理解できる。	(1) 教育の意義	①教育とは ②人間と教育 ③社会と教育 ④教育の必要性 ⑤教育の可能性	講義	
		(2) 人間の発達と教育	①教育の目的 ②家庭、学校、社会における教育活動 ③ペタゴジーとアンドラゴジー	講義	
	2. 教育の現状と課題が理解できる。	(1) 子どもの教育と社会	①子ども観、教育観の変遷 ②子どもを取り巻く家庭や社会の現状 ③公教育の現状 ・道徳教育 ④学校・家庭・地域の連携	講義	
		(2) 現代の教育における課題	①貧困 ②虐待 ③いじめ ④不登校・引きこもり	講義	
		(3) 生涯学習について	①生涯学習と社会教育 ②生涯学習・教育の新展開	講義	
テキスト	「未来に生きる教育学」 あいり出版				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	基礎分野	授業科目	心理学	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	人間の心のしくみや心の適応について学ぶ。				
授業のキーワード	人間 心 知覚 感覚 認知 脳 記憶 知能 学習 発達				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 心理学とは何か理解できる。	(1)心理学の定義・意義	①心理学の対象、定義、考え方 ②心理学の領域 ③心理学の方法	講義	
	2. 心のしくみについて理解できる。	(1)感覚・知覚の心理 (2)記憶の心理 (3)思考・言語の心理 (4)学習の心理	①感覚のしくみとはたらき ②知覚のしくみとはたらき ③脳とこころ ①記憶のメカニズム ②感覚・短期記憶と作業記憶 ③長期記憶と忘却 ①思考とは ②推論 ③言語とコミュニケーション ①学習とは ②古典的条件づけ ③オペラント条件付けと学習の理論 ④社会的学習と効果的な学習方法	講義 演習 講義 講義 講義	
	3. 心と適応について理解できる。	(1)知能の心理 (2)感情・情緒・情操の心理 (3)適応の心理 (4)性格の心理 (5)集団の心理	①知能とは ②知能の発達と変化 ③知能検査 ①感情の心理 ②情緒の心理 ③情操の心理 ①人と環境 ②適応・不適応 ③適応の規制 ①性格の形成 性格の理解、性格検査、適性検査 ①集団の形成と機能 個人と集団、集団の特徴とはたらき ②集合行動	講義 演習 講義 講義 講義	
	4. 人間各期の発達段階の特徴とその心理について理解できる。	(1)発達の心理 (2)医療と心理学	①発達の原理 ②発達段階の特徴 ①心の病と心理療法	講義 講義	
テキスト	「心理学 【カレッジ版】」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	基礎分野	授業科目	英語	担当 講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	医療現場で活用する英語表現と英会話を学ぶ。				
授業のキーワード	英会話				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 医療現場に必要な英会話ができる。	(1) 医療現場でよく使用される英語表現 (2) 医療現場での英会話	①身体各部の名称 ②疾患・症状 ③検査・処置 ①初対面の対応 ②患者のプロフィール把握 ③病歴と生活習慣 ④病棟内のオリエンテーション ⑤日常生活動作 ⑥バイタルサイン ⑦処方薬の管理 ⑧退院時の指導	講義	講義 演習
テキスト	「Nursing English in Action」 IPEC				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	基礎分野	授業科目	経済学	担当 講師	
開始 年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経 験	
授業の目的	社会の動きやしくみを経済の視点から学ぶ。				
授業のキーワード	日本経済の現状 経済財政政策 金融政策 日本経済に関する問題				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 経済学について理解できる。	(1) 経済学とは	①経済学とは ②経済学を学ぶ意義	講義	
	2. 日本経済の現状としくみについて理解できる。	(1) 暮らしと経済	①日本の経済状況 ②日本の家計消費 ③年金の制度	講義	
		(2) 経済財政政策	①政府の役割 ②日本における財政の現状 ③経済財政政策の現状 ④生活に関わる税制	講義	
	3. 日本経済が直面する諸問題について理解できる。	(3) 金融政策	①日本の金融システム ②日本銀行の役割 ③金融政策の現状	講義	
		(1) 日本経済が直面する諸問題	①少子高齢化による生産労働人口の減少 ②景気低迷による格差問題 ③少子高齢化による社会保障制度の危機（年金・医療・介護）	講義	
テキスト	指定なし				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	基礎分野	授業科目	倫理学	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的	倫理学の基礎を理解し、多様な価値観があることを学ぶ。				
授業のキーワード	倫理 メタ倫理学 規範倫理学 応用倫理学 生命倫理 価値観				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 倫理学の基礎を理解できる。	(1) 倫理学とは	①倫理学とは ②道徳と倫理 ③倫理学を学ぶ意義	講義	
		(2) 倫理学の分類	①メタ倫理学 ②規範倫理学 ・功利主義 ・義務論 ・徳倫理学 ③応用倫理学 ・生命倫理	講義	
	2. 多様な価値観について理解することができる	(1) 多様な価値観	①人による価値観の相違 ②状況による価値観の変化 ③「正しい」と判断する根拠	講義 演習	
	3. 生命倫理に関わる現代の課題について考えることができる	(1) 生命倫理に関わる現代の課題	①尊厳死 ②安楽死 ③出生前診断	講義 演習	
テキスト	指定なし				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

2. 専 門 基 礎 分 野

授 業 科 目		単 位	時 間
人体の構造と 機能	解剖生理学Ⅰ（細胞 骨格・筋 皮膚・免疫）	1	30
	解剖生理学Ⅱ（呼吸 血液 循環）	1	30
	解剖生理学Ⅲ（消化・吸収 腎・泌尿器 生殖）	1	30
	解剖生理学Ⅳ（神経 内分泌 感覚）	1	30
	生化学	1	30
疾病の成り立ち と回復の促進	栄養学	1	15
	臨床薬理学	1	30
	臨床検査	1	30
	病理学	1	15
	病態生理学	1	15
	疾病・治療論Ⅰ （筋・骨格器系疾患 消化器疾患）	1	30
	疾病・治療論Ⅱ（呼吸器疾患 循環器疾患）	1	30
	疾病・治療論Ⅲ（脳神経疾患 内分泌疾患）	1	30
	疾病・治療論Ⅳ （血液・造血器疾患 女性生殖器疾患）	1	30
	疾病・治療論Ⅴ （腎・泌尿器疾患 アレルギー・免疫疾患）	1	30
	疾病・治療論Ⅵ（感覚器疾患）	1	15
	小 計	16	420
	健康支援と 社会保障制度	公衆衛生学	1
健康支援論		1	15
リハビリテーション論		1	15
社会保障制度		1	30
総合医療論		1	15
関係法規		1	15
小 計		6	105
小 計		22	525

分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学 I (細胞 骨格・筋 皮膚・免疫)	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 解剖生理学の基礎について学ぶ。 2. 骨格・筋の構造と機能について学ぶ。 3. 身体機能の防御と適応について学ぶ。			
授業のキーワード		細胞 骨格 筋 皮膚 免疫			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 解剖生理学のための基礎知識が理解できる。	(1)解剖生理学のための基礎知識	①形からみた人体 ②素材からみた人体 ③機能からみた人体	講義	
	2. 骨格・筋の構造と機能が理解できる。	(1)骨格・筋	①骨格とはどのようなものか ②骨の連結 ③骨格筋 ④体幹の骨格と筋 ⑤上肢の骨格と筋 ⑥下肢の骨格と筋 ⑦頭頸部の骨格と筋 ⑧筋の収縮	講義	
	3. 身体機能の防御と適応が理解できる。	(1)身体機能の防御と適応	①皮膚の構造と機能 ②生体の防御機構 ③体温とその調節	講義	
テキスト	「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅱ (呼吸 血液 循環)	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 呼吸と血液のはたらきについて学ぶ。 2. 血液の循環とその調節について学ぶ。			
授業のキーワード		呼吸 血液 循環			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 呼吸と血液のはたらきが理解できる。	(1)呼吸と血液のはたらき	①呼吸器の構造 ②呼吸 ③血液	講義	
	2. 血液の循環とその調節が理解できる。	(1)血液の循環とその調節	①循環器系の構成 ②心臓の構造 ③心臓の拍出機能 ④末梢循環系の構造 ⑤血液の循環の調節 ⑥リンパとリンパ管	講義	
テキスト	「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅲ (消化・吸収 腎・泌尿器 生殖)	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 栄養の消化と吸収について学ぶ。 2. 体液の調節と尿の生成について学ぶ。 3. 生殖・発生と老化のしくみについて学ぶ。			
授業のキーワード		消化 吸収 体液の調節 尿の生成 生殖			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 栄養の消化と吸収が理解できる。	(1) 栄養の消化と吸収	①口・咽頭・食道の構造と機能 ②腹部消化管の構造と機能 ③膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 ④腹膜	講義	
	2. 体液の調節と尿の生成が理解できる。	(1) 体液の調節と尿の生成	①腎臓 ②排尿路 ③体液の調節	講義	
	3. 生殖・発生と老化のしくみが理解できる。	(1) 生殖・発生と老化のしくみ	①男性生殖器 ②女性生殖器 ③受精と胎児の発生 ④成長と老化	講義	
テキスト	「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学IV (神経 内分泌 感覚)	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	1. 内臓機能の調節について学ぶ。 2. 情報の受容と処理について学ぶ。				
授業のキーワード	自律神経 内分泌 中枢神経 末梢神経 感覚				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 内臓機能の調節が理解できる。	(1)内臓機能の調節	①自律神経による調節 ②内分泌系による調節 ③全身の内分泌腺と内分泌細胞 ④ホルモン分泌の調節 ⑤ホルモンによる調節の実際	講義	
	2. 情報の受容と処理が理解できる。	(1)情報の受容と処理	①神経系の構造と機能 ②脊髄と脳 ③脊髄神経と脳神経 ④脳の高次機能 ⑤運動機能と下行伝導路 ⑥感覚機能と上行伝導路 ⑦眼の構造と視覚 ⑧耳の構造と聴覚・平衡覚 ⑨嗅覚と味覚 ⑩痛み (疼痛)	講義	
テキスト	「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	生化学	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	生体を構成する物質の代謝と遺伝のメカニズムについて学ぶ。				
授業のキーワード	代謝 糖質 脂質 タンパク質 遺伝子 DNA RNA				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 生体を構成する物質とその代謝について理解できる。	(1)代謝の基礎と酵素・補酵素	①代謝とは ②酵素 ②補因子 ③ビタミン ④酵素の反応速度 ⑤酵素の阻害	講義	
		(2)糖質の構造と機能	①糖質とは ②単糖の構造と機能 ③二糖の構造と機能 ④多糖の構造と機能	講義	
		(3)糖質代謝	①糖質の消化と吸収 ②グルコースの分解 ③グリコーゲン代謝	講義	
		(4)脂質の構造と機能	①脂質とは ②脂質の種類 ③リポタンパク質	講義	
		(5)脂質代謝	①脂質の消化と吸収 ②脂肪酸の分解 ③脂質の合成	講義	
		(6)タンパク質の構造と機能	①タンパク質とは ②アミノ酸 ③タンパク質の構造	講義	
		(7)タンパク質代謝	①タンパク質の消化と吸収 ②アミノ酸の分解 ③非必須アミノ酸の合成	講義	
	2. 遺伝子と遺伝のメカニズムについて理解できる。	(1)遺伝子と核酸	①遺伝子とは ②核酸の構造と機能 ③核酸の代謝	講義	
		(2)遺伝子の複製・修復・組換え	①DNAの複製 ②DNAの修復 ③DNAの組換え	講義	
		(3)転写	①転写とは ②転写の開始と終結 ③RNAのプロセッシング ④遺伝子の発現調節	講義	
		(4)翻訳	①翻訳のメカニズム ②翻訳後修飾	講義	
テキスト	「系統看護学講座 人体の構造と機能〔2〕生化学」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	栄養学	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務経験	
授業の目的	栄養の意義を理解し、臨床栄養について学ぶ。				
授業のキーワード	栄養素 食事摂取基準 栄養状態の評価 臨床栄養				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 栄養の意義を理解できる。	(1) 栄養の意義	① 栄養の意義	講義	
		(2) 栄養素	① 栄養素の種類とはたらき ・糖質 ・タンパク質 ・脂質 ・ビタミン ・ミネラル	講義	
		(3) 食事摂取基準と食品成分	① 食事摂取基準とエネルギー必要量 ② 食品に含まれる栄養素	講義	
	2. 臨床栄養について理解できる。	(1) 臨床栄養	① 臨床栄養の意義 ② チームにおける栄養ケア ・栄養サポートチーム (NST) ・栄養ケア・マネジメント (NCM)	講義	
			③ 栄養補給法 ④ 疾患別食事療法 ・循環器疾患 ・消化器疾患 ・栄養・代謝疾患 ・腎臓疾患 ・血液疾患 ⑤ 症状別食事療法 ・食物アレルギー ・摂食・嚥下障害		
		(2) 栄養状態の評価	① 身体計測による判定 ② わが国の栄養の現状と栄養改善	講義	
	(3) ライフステージと栄養	① 小児期 ② 成人期 ③ 高齢期	講義		
テキスト	「系統看護学講座 人体の構造と機能〔3〕 栄養学」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	臨床薬理学	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	薬物の特徴と作用機序、人体への影響について学ぶ。				
授業のキーワード	医薬品	薬理作用	体内動態	治療薬	病棟薬剤師
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 薬物の特徴と作用機序、人体への影響について理解できる。	(1) 医薬品	①医薬品とは ②医薬品の分類 ③医薬品に関する法律 ④薬理作用の原理 ⑤薬理作用に影響を及ぼす要因 ⑥薬物の有害作用 ⑦薬物の相互作用 ⑧医薬品使用時の注意 ⑨医薬品添付文書 ⑩処方から投与まで	講義	
		(2) 各疾患における治療薬の薬理作用	①主な生活習慣病に使用する薬 ・高血圧 ・糖尿病 ・脂質異常症 ・動脈硬化 ②生活習慣病に随伴する循環器障害に使用する薬 ③生活習慣病に随伴する脳血管障害(急性期)に使用する薬 ④がん・痛みに使用する薬 ⑤脳・中枢神経系疾患で使用する薬 ⑥感染症に使用する薬 ⑦救命救急時に使用する薬 ⑧アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬 ⑨消化器系疾患に使用する薬	講義	
	2. 病棟での薬剤師の役割と業務について理解できる。	(1) 病棟での薬剤師の役割と業務	①病棟での薬剤師の役割 ②病棟での薬剤師業務 ③薬剤師と看護師の連携	講義	
テキスト	「ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学」 メディカ出版				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	臨床検査	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	臨床検査、病原菌の特徴と感染症について学ぶ。				
授業のキーワード	臨床検査 病原菌 感染症				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 臨床検査について理解できる。	(1)臨床検査の基礎	①診療における検査の役割 ・健康な人体と臨床検査 ・診療における臨床検査 ・臨床検査の限界 ・臨床検査の負担と費用対効果 ②臨床検査の種類 ・検体検査 ・生体検査 ③臨床検査の場面と目的 ④臨床検査結果の評価	講義	
		(2)検体検査の種類	①一般検査 ②血液学的検査 ③化学検査 ④免疫・血清学的検査 ⑤内分泌的検査 ⑥微生物学的検査 ⑦病理学的検査	講義	
	2. 病原菌の特徴と感染症について理解できる。	(1)病原菌の特徴と感染症	①人と病原体の関わり ②感染経路 ③ウイルスとウイルス感染症 ④細菌と細菌感染症 ⑤真菌・医動物による感染症	講義	
テキスト	「系統看護学講座 臨床検査」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	病理学	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的	病理学の概念と疾病の成り立ちについて学ぶ。				
授業のキーワード	循環障害 先天異常 代謝障害 炎症 免疫 腫瘍				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 病理学の概念が理解できる。	(1) 病理学の概念	①病理学とは ②病因論 ③疾病の分類	講義	
	2. 細胞・組織の変性の成り立ちが理解できる。	(1) 細胞・組織の障害と修復 (2) 細胞・組織の死	①細胞の損傷と修復 萎縮 肥大 過形成 化生 ②組織の修復と創傷治癒 ①細胞・組織の死 ネクロシス アポトーシス 細胞の老化	講義 講義	
	3. 疾病の成り立ちを理解できる。	(1) 循環障害 (2) 先天異常・遺伝子の異常 (3) 代謝障害 (4) 炎症と免疫 (5) 腫瘍	①循環血液量の障害 腹水・胸水 充血 うっ血 虚血 出血 ②閉塞性の循環障害 血栓症 塞栓症 梗塞 ①先天異常の分類 遺伝障害・胎児障害 ②染色体異常と遺伝性疾患 ③奇形と胎児障害 ④先天異常の診断・治療 ①脂質代謝障害 ②タンパク質代謝障害 ③糖質代謝障害 ④そのほかの代謝障害 ①炎症とその分類 ②免疫と免疫不全 ③アレルギーと自己免疫疾患 ①腫瘍の定義と分類 ②悪性腫瘍の広がりと影響 ③腫瘍の発生病理 ④腫瘍の診断と治療	講義 講義 講義 講義	
テキスト	「系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進〔1〕病理学」医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	病態生理学	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的	各症状の定義、誘因・原因ならびにメカニズムについて学ぶ。				
授業のキーワード	貧血 浮腫 悪心・嘔吐 脱水 発熱 ショック 意識障害				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 各症状の定義、誘因・原因ならびにメカニズムについて理解できる。	(1) 貧血	①貧血の定義 ②貧血の分類・原因・誘因ならびにメカニズムと特徴 ③貧血の随伴症状と二次的問題 ④貧血に対する主な診察と検査	講義	
		(2) 浮腫	①浮腫の定義 ②浮腫の分類・原因・誘因ならびにメカニズム ③浮腫の随伴症状と二次的問題 ④浮腫に対する主な診察と検査	講義	
		(3) 悪心・嘔吐	①悪心・嘔吐の定義 ②悪心・嘔吐のメカニズム ③悪心嘔吐の随伴症状 ④嘔吐の二次的問題 ⑤嘔吐に対する主な診察と検査	講義	
		(4) 脱水	①脱水の定義 ②脱水の分類・原因・誘因ならびにメカニズムと特徴 ③脱水の程度と随伴症状 ④脱水の二次的問題 ⑤脱水に対する診察と検査	講義	
		(5) 発熱	①発熱・高体温の定義 ②発熱・高体温の原因・誘因・ならびにメカニズムと特徴 ③発熱と随伴症状 ④発熱の二次的問題 ⑤発熱に対する主な診察と検査	講義	
		(6) ショック	①ショックの定義 ②ショックの分類 ③ショックの原因・誘因ならびにメカニズムと特徴 ④ショックの経過に伴う徴候 ⑤ショックの二次的問題 ⑥ショックに対する主な診察と検査 ⑦ショックに対する主な治療	講義	
		(7) 意識障害	①意識障害の定義 ②意識障害のレベルの分類 ③意識障害の分類・原因・誘因ならびにメカニズムと特徴 ④意識障害の随伴症状 ⑤意識障害に対する主な診察と検査	講義	
テキスト	「看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント」 学研				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	疾病・治療論 I (筋・骨格器系疾患 消化器疾患)	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 筋・骨格系疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。 2. 消化器疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。			
授業のキーワード		筋・骨関節疾患 消化器疾患 病態生理 検査 治療			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 筋・骨格系疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)筋・骨格系疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 (外科治療を含む) ・骨折 脱臼 神経の損傷 ・筋・腱・靭帯の損傷 ・先天性疾患 ・骨・関節の炎症性疾患 ・骨腫瘍 ・椎間板ヘルニア ・脊髄腫瘍 ・神経の疾患 ・脊髄損傷 ・四肢・下肢の疾患 ・ロコモティブシンドローム ・運動器不安定症 ②主な検査 ・画像検査 ・関節造影 脊髄造影検査 ・超音波検査 ・関節鏡 ・骨密度検査 ・関節液検査	講義	
	2. 消化器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)消化器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 (外科治療を含む) ・食道の疾患 (食道癌) ・胃・十二指腸潰瘍 ・胃癌 ・腸および腹膜疾患 潰瘍性大腸炎 クロウン病 腹膜炎 ・ヘルニア ・イレウス ・腸管ポリープ ・結腸癌・直腸癌 ・肛門疾患 ・肝臓・胆嚢・胆管の疾患 肝炎 肝癌 肝硬変症 門脈圧亢進症 胆石症 ・膵臓の疾患 膵炎 膵癌 ②主な検査 ・肝機能検査 ・画像検査 ・内視鏡検査 ・腹部超音波検査 ・肝生検	講義	
テキスト	「系統看護学講座 成人看護学 [10] 運動器」 「系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器」		医学書院 医学書院		
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	疾病・治療論Ⅱ (呼吸器疾患 循環器疾患)	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 呼吸器疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。 2. 循環器疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。			
授業のキーワード		呼吸器疾患 循環器疾患 病態生理 検査 治療			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 呼吸器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)呼吸器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 (外科治療を含む) ・気道の疾患 気管支喘息 気管支拡張症 慢性閉塞性肺疾患 ・肺の疾患 肺結核 肺気腫 肺線維症 肺炎 間質性肺疾患 ・肺腫瘍 ・胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 ・胸部外傷 ②主な検査 ・画像検査 ・内視鏡検査 ・呼吸機能検査 ・血液検査 ・喀痰検査 ・生検	講義	
	2. 循環器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)循環器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 (外科治療含む) ・心不全 ・不整脈 ・血圧の異常 (高血圧) ・虚血性心疾患 狭心症 心筋梗塞 ・心臓弁膜疾患 ・心筋疾患 (心筋症) ・血管の疾患 ②主な検査 ・画像検査 ・心電図 ・心臓カテーテル検査 ・心臓超音波検査	講義	
テキスト	「系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔3〕循環器」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	疾病・治療論Ⅲ (脳神経疾患 内分泌疾患)	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 脳神経疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。 2. 内分泌・代謝系疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。			
授業のキーワード		脳神経疾患 内分泌・代謝系疾患 病態生理 検査 治療			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 脳神経疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)脳神経疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 (外科治療を含む) ・脳血管障害 ・脳腫瘍 ・パーキンソン病 ・脊髄小脳変性症 ・多発性硬化症 ・神経・筋疾患 重症筋無力症 進行性筋ジストロフィー 筋萎縮性側索硬化症 ②主な検査 ・画像検査 ・髄液検査 ・脳波 ・筋電図	講義	
	2. 内分泌・代謝系疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)内分泌・代謝系疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 ・下垂体の疾患 先端肥大症 (巨人症) 下垂体機能低下症 下垂体性小人症、尿崩症 ・甲状腺機能亢進症 ・クッシング症候群 ・糖尿病 ・脂質異常症 ・蛋白質代謝異常 ②主な検査 ・血液検査 (ホルモン血中濃度) ・尿検査 ・負荷試験	講義	
テキスト	「系統看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔6〕内分泌・代謝」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	疾病・治療論Ⅳ (血液・造血器疾患 女性生殖器疾患)	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 血液・造血器疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。 2. 女性生殖器疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。			
授業のキーワード		血液・造血器疾患 女性生殖器疾患 病態生理 検査 治療			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 血液・造血器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 血液・造血器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 ・貧血 ・白血病 ・悪性リンパ腫 ・多発性骨髄腫 ・播種性血管内凝固症候群 ②主な検査 ・末梢血検査 ・骨髄検査 ・リンパ節生検	講義	
	2. 女性生殖器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 女性生殖器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療含む) ・性分化疾患 ・子宮がん ・子宮内膜症 ・月経異常 ・不妊症 ・性感染症 ・膣炎 ・子宮筋腫 ・卵巣腫瘍 ・更年期障害 ・不育症 ・乳がん ②主な検査 ・画像検査 ・内視鏡検査 ・頸管粘液検査 ・細胞診 ・ホルモン測定	講義	
テキスト	「系統看護学講座 成人看護学〔4〕血液・造血器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔9〕女性生殖器」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	疾病・治療論Ⅴ (腎・泌尿器疾患 アレルギー・免疫疾患)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 腎・泌尿器疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。 2. アレルギー疾患・免疫疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。			
授業のキーワード		腎・泌尿器疾患 アレルギー疾患・免疫疾患 病態生理 検査 治療			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 腎・泌尿器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 腎・泌尿器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・腎不全 急性腎不全 慢性腎不全 ・糸球体腎炎 ・ネフローゼ症候群 ・尿路感染症 ・結石症 ・尿路の腫瘍 腎実質腫瘍 腎盂及び尿管腫瘍 膀胱腫瘍 尿道腫瘍 ・泌尿器の疾患 先天異常 前立腺肥大 前立腺癌 ②主な検査 ・尿検査 ・腎機能検査 ・造影検査 ・内視鏡検査	講義	
	2. アレルギー疾患・免疫疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) アレルギー・免疫疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 ・アレルギー反応とその機序 ・アレルギー疾患 ・関節リウマチ ・全身性エリテマトーデス ・強皮症 ・皮膚筋炎・多発性筋炎 ・血管炎症候群 ・膠原病類縁疾患 ②主な検査 ・血液検査 ・免疫学的検査 ・画像検査	講義	
テキスト	「系統看護学講座 成人看護学〔8〕腎・泌尿器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	疾病・治療論VI (感覚器疾患)	担当 講師	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的		感覚器系疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。			
授業のキーワード		耳鼻咽喉疾患 眼疾患 皮膚疾患 病態生理 検査 治療			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 耳鼻咽喉疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 耳鼻咽喉疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・中耳炎 難聴 メニエール病 ・副鼻腔炎 鼻炎 ・上顎癌 ・喉頭癌 ・口唇裂 口蓋裂 ②主な検査 ・聴力検査 ・平衡機能検査 ・内視鏡検査 ・画像検査	講義	
	2. 眼疾患の病態、生理、検査、治療について理解できる。	(1) 眼疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・結膜炎 屈折異常 ・白内障 緑内障 網膜剥離 ・糖尿病性網膜症 ・斜視 ・眼瞼疾患 ②主な検査 ・視力・屈折・眼圧検査 ・眼底検査	講義	
	3. 皮膚疾患の病態、生理、検査、治療について理解できる。	(1) 皮膚疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・湿疹・皮膚炎 蕁麻疹 ・皮膚感染症 (一般細菌・真菌・ウイルス) ・腫瘍性疾患 ・膠原病 ・薬疹・中毒疹 ・熱傷 ・凍傷 ②主な検査 ・パッチテスト ・皮膚組織生検	講義	
テキスト	「系統看護学講座 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [13] 眼」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 [12] 皮膚」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	公衆衛生学	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実務 経 験	
授業の目的	公衆衛生の概念と健康増進のための法制度および保健活動について学ぶ。				
授業のキーワード	公衆衛生 保健統計 法制度 感染 学校保健 産業保健				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 公衆衛生の概念を理解できる。	(1) 公衆衛生の概念	①公衆衛生の定義 ②公衆衛生活動	講義	
	2. 生活者の健康増進のための法制度および保健活動について理解できる。	(1) 集団の健康をとらえるための保健統計	①人口静態 ②人口動態 ③疾患の発生状況と健康指標	講義	
		(2) 地域保健	①母子保健 ②成人・高齢者保健 ③精神保健 ④歯科保健 ⑤難病支援・障害支援	講義	
		(3) 感染症とその予防対策	①我が国の感染症予防対策 ・感染症法 ・検疫 ②公衆衛生上の重要な感染症とその対策	講義	
		(4) 学校保健	①学校保健とは ②学校保健の実際 ・保健教育 ・保健管理 ・保健組織活動 ③特別支援教育	講義	
		(5) 産業保健	①産業保健とは ②職場における健康をまもるしくみ ③産業保健と看護活動 ④産業保健における今後の課題と新たな動き	講義	
		(6) 滋賀県の公衆衛生	①滋賀県の公衆衛生の取り組み	講義	
テキスト	「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	健康支援論	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的	ヘルスプロモーションと、健康支援のためのシステムについて学ぶ。				
授業のキーワード	ヘルスプロモーション 健康政策				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. ヘルスプロモーションについて理解できる。	(1)健康とは (2)健康問題の現状 (3)ヘルスプロモーションとは (4)WHOのヘルスプロモーションと健康政策 (5)日本のヘルスプロモーションと健康政策 (6)ヘルスプロモーションの活動 (7)ヘルスプロモーションにおけるアプローチ	①健康のとらえ方 ①健康に関する統計 ②健康に影響を及ぼす社会的な背景 ①ヘルスプロモーションの定義 ②ヘルスプロモーションの概念 ①WHO活動方針 ②WHOのヘルスプロモーションと健康政策 ①健康づくり対策 ①健康的な公共政策づくり ②健康を支援する環境づくり ③地域活動の強化 ④個人技術の開発 ⑤ヘルスサービスの方向転換 ①個人と集団に対するアプローチ ②ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ ③健康教育の技術と媒体の活用 ④主要な健康行動理論	講義 講義 講義 講義 講義 講義	
	2. 健康支援のためのシステムについて理解できる。	(1)健康の支援者と主要な機関	①保健所の役割と機能 ②市町村保健センターの役割と機能 ③産業保健の役割 ④その他の行政機関の役割 ⑤私的な機関とボランティアの活動	講義	
テキスト	「ヘルスプロモーション」 メヂカルフレンド社 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	リハビリテーション論	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的	リハビリテーションの基礎について理解し、リハビリテーションの実際を学ぶ。				
授業のキーワード	リハビリテーション 障害 理学療法 作業療法 言語聴覚療法				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. リハビリテーションの基礎について理解できる。	(1) リハビリテーションの基礎	①リハビリテーションの定義 ②リハビリテーション対象と制度 ③疾病・障害・生活機能の分類 ④リハビリテーションの分野 ⑤経過別にみるリハビリテーション ⑥リハビリテーションにおける多職種連携	講義	
	2. リハビリテーションの実際について理解できる。	(1) 理学療法	①理学療法とは ②理学療法の種類 ③理学療法の実際	講義	
		(2) 作業療法	①作業療法とは ②作業療法の種類 ③作業療法の実際	講義	
		(3) 言語聴覚療法	①言語聴覚療法とは ②言語聴覚療法の種類 ③言語聴覚療法の実際	講義	
テキスト	「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	社会保障制度	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	社会保障の理念を理解し、社会の中で生活する人の生活問題に対する法律、政策について学ぶ。				
授業のキーワード	憲法 人権 生活者 生活問題 社会保障 社会福祉				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 社会保障の理念と基本的な制度が理解できる。	(1) 社会保障の概念	① 社会保障の理念 ② 社会保障の目的 ③ 社会保障の機能 ④ 社会保障の体系	講義	
		(2) 我が国の社会保障制度	① 社会保障制度の動向 ② 医療保障制度 ③ 介護保障制度（介護保険制度） ④ 所得保障（所得保障制度・年金保障制度・労働保険制度） ⑤ 社会福祉行政のしくみ ・社会福祉と医療・看護との連携 ・社会保障、社会福祉からみた連携をめぐる課題	講義	
	2. 社会福祉の理念と、生活者としての問題に対する政策が理解できる。	(1) 社会福祉とは	① 社会福祉の考え方 ② 社会福祉の動向 ③ 社会福祉法	講義	
		(2) 社会福祉の諸制度と施策	① 老人福祉法 ② 障害者基本法 障害者総合支援法 身体障害者福祉法 知的障害者福祉法 精神保健福祉法 ③ 母子及び父子並びに寡婦福祉法 児童福祉法 ④ 生活保護法	講義	
テキスト	「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会保障・社会福祉」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	総合医療論	担当 講師	
開始 年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的		医療の現状と課題を学び、看護師の果たすべき役割について学ぶ。			
授業のキーワード		生命 健康 医療システム 医療の現状 倫理 医療の動向			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 医療・看護の原点が理解できる。	(1) 生命と健康 (2) 病気 (3) 医療の考え方	① 生命現象と死 ② 健康とは ① 生活と病気 ① 医療的ケア	講義 講義 講義	
	2. 医療の歴史と医療観の変遷が理解できる。	(1) 医療の歴史	① 現代医療の起源 ② 20世紀の医療 ③ 医療観の移り変わり	講義	
	3. 現代日本の医療システムが理解できる。	(1) 生活と医療との関連	① 日本の保険医療のしくみ ② 生活と環境衛生、保健・福祉行政	講義	
	4. 医療技術の進歩の成果と課題について理解できる。	(1) 先端医療技術と課題	① 現代医療技術の成果と影響	講義	
	5. 医療に対する人々の意識変革について理解できる。	(1) 医療体制と人々の意識	① 日本の医療供給体制 ② 人々の意識 ③ インフォームドコンセントの法理 ④ 医療情報の開示と診療録	講義	
	6. 医療をめぐる新たな視点が理解できる。	(1) 医療の論理 (2) 医療の倫理 (3) 医療の管理	① 人々の受療行動 ① 生命倫理学 ① 医療の質 ② 医療の技術評価	講義 講義 講義	
	7. 今後の医療のあり方と医療者に必要な資質が理解できる。	(1) 保健医療の動向と医療者の資質	① 保健・医療の新しい動向 ② 医療者-患者関係の未来像と求められる資質 ③ チーム医療・チームケア ④ プライマリーケアの新たな展開 ⑤ 医療におけるケアの視点	講義	
テキスト	「系統看護学講座 別巻 総合医療論」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	関係法規	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的	1. 保健師助産師看護師法を中心に、看護職を取り巻く法的背景について学ぶ。 2. 看護職の責任と役割を学ぶ。				
授業のキーワード	医事法 保健師助産師看護師法 医療法 責任と役割				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 法に関する基礎的知識と、関係法令の基本となる法を理解できる。	(1)法の概念	①看護業務を規定する法と倫理 ②看護者の責務と倫理 ③法の概念 ④医療職のための法規 ⑤厚生労働行政のしくみ	講義	
	2. 看護に関連する法規が理解できる。	(1)保健師助産師看護師法	①保健師助産師看護師法の目的 ②保健師助産師看護師の定義 ③免許・籍の登録・国家試験 ④保健師助産師看護師法の変遷	講義	
		(2)看護に関連する法規	①看護師等の人材確保の促進に関する法律と就職 ②看護師に関連する法律 医療事故、医療過誤、行政処分 ③医師法 ④医療法 ⑤保健衛生法 ⑥薬務法 ⑦社会保険法 ⑧福祉法 ⑨労働法 ⑩個人情報保護に関する法律	講義	
テキスト	「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令」 医学書院 「看護六法」 新日本法規				
成績評価の方法	筆記試験100%				

3. 専 門 分 野

授 業 科 目		単 位	時 間
基礎看護学	看護学概論	1	30
	共通基本技術Ⅰ (技術の概念・人間関係成立の技術)	1	15
	共通基本技術Ⅱ (環境・バイタルサイン・感染予防)	1	30
	共通基本技術Ⅲ (看護過程)	1	30
	日常生活援助技術Ⅰ (運動・休息)	1	30
	日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣)	1	30
	日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄)	1	30
	診療に伴う技術Ⅰ (診療の補助技術)	1	30
	診療に伴う技術Ⅱ (治療時の看護)	1	30
	臨床看護総論	1	30
	フィジカルアセスメント	1	30
	小 計	11	315
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ (地域と暮らし)	1	15
	地域・在宅看護概論Ⅱ (健康と暮らしを支える看護)	1	30
	地域・在宅看護概論Ⅲ (地域での療養を支える看護)	1	15
	地域・在宅看護援助論Ⅰ (健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護)	1	15
	地域・在宅看護援助論Ⅱ (在宅で療養する人と家族の看護)	1	30
	地域・在宅看護援助論Ⅲ (在宅療養を支える援助技術)	1	30
	小 計	6	135

授 業 科 目		単 位	時 間
成人看護学	成人看護学概論	1	30
	成人看護学援助論Ⅰ（急性期にある対象の看護）	1	30
	成人看護学援助論Ⅱ（回復期にある対象の看護）	1	30
	成人看護学援助論Ⅲ（慢性期にある対象の看護）	1	30
	成人看護学援助論Ⅳ（終末期にある対象の看護）	1	15
	成人看護学援助論Ⅴ（がん治療を受ける対象の看護）	1	15
	小 計	6	150
老年看護学	高齢者看護学概論	1	15
	高齢者看護学援助論Ⅰ（健康支援と日常生活援助）	1	30
	高齢者看護学援助論Ⅱ（認知症と終末期の看護）	1	30
	高齢者看護学援助論Ⅲ（検査・治療に伴う看護）	1	30
	小 計	4	105
小児看護学	小児看護学概論Ⅰ（小児看護の役割）	1	15
	小児看護学概論Ⅱ（子どもの成長と発達）	1	30
	小児看護学援助論Ⅰ （疾患・障害のある子どもの看護）	1	30
	小児看護学援助論Ⅱ （健康の段階・発達段階に応じた看護）	1	30
	小 計	4	105
母性看護学	ウィメンズヘルス看護概論Ⅰ（女性の健康と看護）	1	15
	ウィメンズヘルス看護概論Ⅱ （女性のライフサイクルと看護）	1	30
	ウィメンズヘルス看護援助論Ⅰ （妊娠期・分娩期の看護）	1	30
	ウィメンズヘルス看護援助論Ⅱ （産褥期・新生児期の看護）	1	30
	小 計	4	105
精神看護学	精神看護学概論Ⅰ（精神看護の概念と健康支援）	1	30
	精神看護学概論Ⅱ（精神保健福祉活動の動向）	1	15
	精神看護学援助論Ⅰ（疾患の理解と看護の特徴）	1	30
	精神看護学援助論Ⅱ（疾病の経過に応じた看護）	1	30
	小 計	4	105
看護の統合 と実践	総合看護	1	30
	看護医療安全	1	30
	災害看護	1	30
	臨床看護実践	1	15
	小 計	4	105

授 業 科 目		単 位	時 間
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ（看護を知る実習）	1	45
	基礎看護学実習Ⅱ （入院生活をおくる対象の理解と日常生活援助）	2	90
	基礎看護学実習Ⅲ（看護の展開）	2	90
	地域・在宅看護論実習Ⅰ （地域で生活する人々の健康支援）	2	60
	地域・在宅看護論実習Ⅱ （地域で生活・療養する人と家族の看護）	2	90
	成人・高齢者看護学実習Ⅰ（成人期・老年期の特徴 と健康障害をふまえた看護）	2	90
	成人・高齢者看護学実習Ⅱ （状況の変化に合わせた看護）	2	90
	小児看護学実習	2	90
	ウィメンズヘルス看護実習	2	90
	精神看護学実習	2	90
	統合実習Ⅰ（臨床判断能力）	2	90
	統合実習Ⅱ（看護の統合）	2	90
	小 計	23	1005
小 計	66	2130	

分野	専門分野	授業科目	看護学概論	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	看護の基盤となる概念を理解し、看護職者としての責任と役割について学ぶ。				
授業のキーワード	人間 健康 看護 看護理論 看護史 専門職 チームアプローチ				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 看護とは何かが理解できる。	(1) 看護の概念	①看護とは ②看護の定義 ③看護の役割と機能 ④看護実践に求められる倫理	講義	
	2. 近代看護の歴史が理解できる。	(1) 職業としての看護の歴史	①職業としての看護のはじまり ②職業としての看護の確立 ③職業としての看護の充実 ④職業としての看護の新たな展開	講義	
	3. 看護の対象としての人間が理解できる。	(1) 統合体としての人間	①生物体・心理社会的存在としての人間 ②ライフコースと人間 ③人間の欲求と行動	講義	
		(2) 環境と人間	①環境とは ②人に影響を及ぼす環境要因 ③個人・家族・コミュニティ・地域社会	講義	
	4. 健康について理解できる。	(1) 健康の概念	①健康とは ②健康の定義 ・WHOの定義 ・ヘルスプロモーション ・障害の定義 ③人間の健康に影響する要因	講義	
		(2) 健康に関する統計	①人々の生活と健康を示す統計 ・出生から死亡に関する統計	講義	
	5. 専門職としての看護職者について理解できる。	(1) 専門職としての看護	①専門職とは ②看護の専門職化 ・法的な規定	講義	
		(2) 看護職の養成制度	①看護職の養成制度と就業状況 ②看護基礎教育 ③継続教育 ・専門看護師 ・認定看護師 ・認定看護管理者 ・特定行為にかかる看護師の研修制度 ④看護職者の養成制度の課題	講義	

	<p>6. 看護におけるチームアプローチが理解できる。</p> <p>7. 看護実践のための理論が理解できる。</p>	<p>(1) チームアプローチ</p> <p>(2) チームカンファレンス</p> <p>(1) 看護理論</p> <p>(2) 理論家による看護のとらえ方</p>	<p>①看護における連携・協働 ②チームアプローチとは ③多職種によるチームアプローチ</p> <p>①多職種によるチームカンファレンス</p> <p>①看護理論とは ②理論家の業績の知識構造レベル</p> <p>①フローレンス・ナイチンゲール ②ヴァージニア・ヘンダーソン ③アイダ・ジーン・オーランド ④アーネスティン・ウィーデンバッグ ⑤ジーン・ワトソン ⑥ドロセア・オレム ⑦ジョイス・トラベルビー ⑧カリスタ・ロイ ⑨パトリシア・ベナー ⑩ヒルデガード・ペプロウ ⑪マーサ・E・ロジャース</p>	<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義 演習</p>
テキスト	<p>「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院 「看護覚え書」 現代社</p>			
成績評価の方法	<p>筆記試験100%</p>			

分野	専門分野	授業科目	共通基本技術 I (技術の概念・人間関係成立の技術)	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 15 時間	実 務 経 験	
授業の目的		1. 看護技術の概念を学ぶ。 2. 人間関係成立のための技法を学ぶ。			
授業のキーワード		看護技術 リフレクション クリティカルシンキング 看護記録 報告 個人情報 コミュニケーション アサーション プロセスレコード			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 看護技術の概念と実践に必要な要素が理解できる。	(1) 技術	①技術の定義 ②技術の本質	講義	
		(2) 看護技術	①看護技術の定義 ②看護技術の特徴 ③看護技術の原則 安全性・安楽性・自立性・経済性 ④看護技術の範囲	講義	
	2. 記録の目的と管理が理解できる。	(3) 看護技術の実践に必要な要素	①リフレクション ②クリティカルシンキング	講義 演習 講義	
		(1) 診療情報と看護記録	①診療情報とは ②看護記録とは ・看護記録の法的位置づけ ③看護記録の目的と意義 ④看護記録の構成 ・基礎情報 (プロフィールを含む) ・看護計画 ・経過記録 (フローシートを含む) ・看護サマリー	講義	
		(2) 診療情報および記録の取り扱い	①記録における個人情報 ・個人情報と要配慮個人情報 ②記録の媒体 ③記録の留意事項と管理 ・記録の開示 ④看護学生の臨地実習における情報と記録の管理 ⑤情報の共有 (報告・連絡・相談)	講義	
	3. 看護における人間関係の重要性を理解し、人間関係成立のための技法が習得できる。	(1) 看護における人間関係	①人間関係と看護 ②相互信頼関係の構築	講義	
		(2) コミュニケーション	①コミュニケーションの基本概念 ②コミュニケーションの基本構造 ③コミュニケーションの種類と概要 ・言語的、非言語的コミュニケーション ・コミュニケーションの技法・アサーション ④コミュニケーションに影響する因子 ⑤コミュニケーション過程の分析と活用 ・ロールプレイを用いる方法 ・プロセスレコードを用いる方法 ⑥チームにおけるコミュニケーション	講義 演習	
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 人間関係論」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	共通基本技術Ⅱ (環境・バイタルサイン・感染予防)	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	生活環境の調整、バイタルサイン測定、感染予防に関する看護技術について学ぶ。				
授業のキーワード	環境 バイタルサイン 感染予防 標準予防策				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 生活環境を調整することの重要性を理解し、その方法が習得できる。	(1)療養生活の環境	①環境とは ②環境の諸要素 ③療養生活と環境 ・病室・病床 ④望ましい環境条件 ・温度 湿度 光 音 色彩 におい 空気の清浄性 ⑤人的環境	講義	
		(2)生活の場における環境整備	①環境整備の目的 ②環境整備における看護師の役割 ③環境整備の視点 ④病床環境の整備 ＜環境整備＞ ＜ベッドメイキング＞	講義 演習 演習 講義	
	2. バイタルサインの測定技術が習得できる。	(1)バイタルサインの測定	①バイタルサインとは ②体温測定 ③脈拍測定 ④呼吸測定 ⑤経皮的動脈血酸素飽和度の測定 ⑥血圧測定 (アネロイド血圧計・電子血圧計) ＜バイタルサイン測定＞	演習	
	3. 感染予防の技術が習得できる。	(1)医療関連感染	⑦記録と報告 ①感染・感染症とは ②医療関連感染とは ③感染の成立と経路	講義	
		(2)感染予防	①感染予防の目的 ②感染予防の方法 ・標準予防策(スタンダードプリクション) ③感染経路別予防策 ④洗浄・消毒・滅菌 ・消毒液の希釈法 ⑤感染性廃棄物の取り扱い ⑥針刺し防止策	講義	
		(3)感染予防の実際	①手指衛生 ②防護用具の着脱 ③無菌操作 ・滅菌物の取り扱い ＜衛生的手洗い・滅菌物の取り扱い 滅菌手袋の着脱・防護用具の着脱＞	講義 演習	
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社 「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」 メディックメディア				
成績評価の方法	技術試験30% 筆記試験70%				

分野	専門分野	授業科目	日常生活援助技術Ⅰ (運動・休息)	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		運動と休息に関する看護技術について学ぶ。			
授業のキーワード		ボディメカニクス 体位 移動 移乗 移送 活動 運動 運動機能 休息 睡眠 リラクゼーション			
時間	目 標	主 題	内 容	指導方法	
	1. 看護におけるボディメカニクスについて理解できる。	(1) ボディメカニクス	①ボディメカニクスとは ②看護におけるボディメカニクスの意義 ③ボディメカニクスの原則	講義	
	2. 安楽な体位・体位変換・移動・移乗・移送に関する技術を習得できる。	(1) 安楽な体位 (2) 体位変換の援助 (3) 移動・移乗・移送の援助 (4) 安楽な体位・体位変換・移動・移乗・移送の援助の実際	①体位の種類・特徴 ②体位による影響 ③安楽な体位の保持 ①体位変換とは ②体位変換の目的・方法・留意点 ①移動・移乗・移送とは ②歩行・移乗・移送の援助における目的・方法・留意点 《安楽な体位の保持 体位変換》 《車いす・ストレッチャーへの移乗》 《車いす・ストレッチャーの移送》 《歩行介助》	講義 講義 講義 演習	
	3. 活動・運動について理解することができる。	(1) 活動 (2) 運動	①活動とは ②日常生活動作（ADL）と手段的日常生活動作（IADL） ③活動の意義 ①運動とは ②運動機能の観察点 a)動作 b)姿勢 c)筋系 d)骨格系 e)関節可動域 <筋力の測定・関節可動域の測定>	講義 講義 演習	
	4. 休息・睡眠について理解することができる。	(1) 休息・睡眠 (2) 休息・睡眠に関する援助 (3) リラクゼーションを促す援助	①休息・睡眠とは ②休息・睡眠の意義 ③休息・睡眠に影響する要因 ①休息・睡眠における看護師の役割 ②休息・睡眠に関する観察点 ③休息・睡眠に関する援助 ①リラクゼーションとは ②リラクゼーションを促す援助 筋弛緩法 自律訓練法 タッチング 罨法 指圧 マッサージ 呼吸法 アロマセラピー 音楽療法	講義 講義 講義	
テキスト		「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社 「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」メディックメディア			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣)	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		清潔と衣生活に関する看護技術について学ぶ。			
授業のキーワード		清潔 衣生活			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 日常生活における清潔行動を理解し、清潔に関する技術が習得できる。	(1) 日常生活における身体の清潔とは	①日常生活における身体の清潔行動 入浴・整容 ②身体の清潔（入浴・整容）の意義 ③身体の清潔（入浴・整容）に影響する要因	講義	
		(2) 清潔の援助	①清潔（入浴・整容）の援助における看護師の役割 ②清潔の援助に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・方法の妥当性を判断するための観察点 ③入浴の援助における目的・方法・留意点 入浴・シャワー浴・全身清拭・洗髪・手浴・足浴・陰部洗浄 ④整容の援助における目的・方法・留意点 整髪・髭剃り・洗面・爪切り・耳のケア・鼻のケア・口腔ケア	講義	
		(3) 清潔の援助の実際	《全身清拭》 《洗髪》 《手浴・足浴・陰部洗浄》 《口腔ケア》	演習	
	2. 日常における衣生活を理解し、衣生活に関する技術が習得できる。	(1) 衣生活とは	①衣服を用いることの意義 ②衣生活に影響する要因	講義	
		(2) 衣生活の援助	①衣生活への援助における看護師の役割 ②療養生活における衣類の選択 ③衣生活の援助に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・方法の妥当性を判断するための観察点 ④衣生活の援助における目的・方法・留意点	講義	
		(3) 衣生活の援助の実際	《寝衣交換》 《寝衣・リネン交換》	演習	
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄)	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実 務 経 験	
授業の目的		食生活と排泄に関する看護技術について学ぶ。			
授業のキーワード		食生活 排泄			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 日常生活における食を理解し、食生活に関する技術が習得できる。	(1) 日常生活における食とは (2) 食生活の援助	①日常生活における食 食事内容 食事行動 ②日常生活における食の意義 ③日常生活における食に影響する要因 ①食生活の援助における看護師の役割 ②栄養サポートチーム ③食生活に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助の内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・援助の妥当性を判断するための観察点 ④食事内容における援助 ⑤食事行動における援助の目的・方法・留意点 <食事介助>	講義 講義	
	2. 日常生活における排泄を理解し、排泄に関する技術が習得できる。	(1) 日常生活における排泄とは (2) 排泄の援助	①日常生活における排泄 ②日常生活における排泄の意義 ③日常生活における排泄に影響する要因 ①排泄の援助における看護師の役割 ②排泄に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助の内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・援助の妥当性を判断するための観察点 ③排泄行動の援助における目的・方法・留意点 ・トイレにおける排泄の援助 ・ポータブルトイレでの排泄の援助 ・床上での排泄の援助 ④自然排泄を促す援助 ・自然排便を促す援助 ・自然排尿を促す援助 ⑤排泄障害の援助における目的・方法・留意点 ・洗腸 ・導尿 (一時的・持続的導尿)	講義 講義	演習

		(3)排泄の援助の実際	≪ポータブルトイレでの援助≫ ≪便器の使い方・尿器の使い方≫ ≪グリセリン浣腸≫ ≪導尿≫ ≪膀胱留置カテーテル管理≫	演習
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法	筆記試験100%			

分野	専門分野	授業科目	診療に伴う技術 I (診療の補助技術)	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実 務 経 験	
授業の目的		診察・検査・与薬に関する看護技術について学ぶ。			
授業のキーワード		診療 診察 検査 与薬 輸血 身体計測 包帯法			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 診療・診察における看護の役割が理解できる。	(1) 診療における看護の役割 (2) 診察における看護師の役割	①診療とは ②診療のプロセス ③診療における看護師の役割 ①診察とは ②診察の目的 ③診察方法 ④診察における看護師の役割 ・安全・安楽に診察を受けるための援助 ・円滑に診察を進めるための援助	講義 講義	
	2. 診療に関連した技術を理解することができる。	(1) 身体計測 (2) 包帯法	①身体計測の目的 ②身体各部の計測 身長・体重・胸囲・腹囲 ①包帯とは ②包帯の目的 ③包帯使用時の原則と注意点 ④包帯の種類と巻き方 ＜包帯法＞	講義 講義	
	3. 検査における看護師の役割を理解し、採血の技術が習得できる。	(1) 検査とは (2) 検査における看護師の役割 (3) 静脈血採血の実際	①検査とは ②検査の目的 ①生体検査時の看護 X線・CT・MRI・超音波検査 ②検体検査時の看護 検体の取り扱い：血液・尿・便・喀痰 ③検査における看護師の役割 ①静脈血採血の部位 ②静脈血採血の方法 《真空管採血》 《注射器採血》	講義 講義	
	4. 薬物療法における看護師の役割を理解し、与薬に関する技術を習得できる。	(1) 薬物療法における看護師の役割 (2) 与薬方法と看護	①薬物療法とは ②薬物の種類と吸収・排泄の機序 ③薬物療法における看護師の役割 正しい与薬 観察 薬物管理（毒薬・劇薬・麻薬） ④与薬に伴う事故と安全対策 ①経口与薬法 ②直腸内与薬法（坐薬） ③経皮的与薬法 ④点眼・点鼻・点耳法 ⑤吸入法 ⑥注射法 (皮内注射・皮下注射・筋肉注射・ 静脈内注射・点滴静脈内注射・中心静脈 カテーテル法)	講義 講義	

	5. 輸血療法における看護師の役割を理解できる。	(3) 与薬の実際 (1) 輸血とは (2) 輸血時の看護	≪皮下注射・筋肉注射≫ ≪静脈内注射・点滴静脈内注射≫ <直腸内与薬> ①輸血とは ②輸血の目的 ③血液製剤の種類と保管 ④輸血の副作用 ⑤輸血前に必要な検査 ①輸血前の看護 ②輸血中の看護 ③輸血後の看護 ④輸血に伴う事故と安全対策	演習 講義 講義
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法	筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	診療に伴う技術Ⅱ (治療時の看護)	担当講師		
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験		
授業の目的	手術療法を受ける対象の看護と医療機器の取り扱いについて学ぶ。					
授業のキーワード	集中治療 手術療法 麻酔 ME機器					
時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. 手術療法を受ける対象の看護が理解できる。	(1) 手術療法	①手術療法とは ②手術療法の変遷 ③低侵襲手術	講義		
		(2) 麻酔	①麻酔とは ②麻酔の種類と作用 ・全身麻酔 (吸入麻酔・静脈麻酔) ・局所麻酔 (硬膜外麻酔・腰椎麻酔)	講義		
		(3) 手術・麻酔が人間に及ぼす影響	①侵襲とは ②手術・麻酔が対象に及ぼす影響	講義		
		(4) 手術前の看護	①術前看護の目標 ②術後に順調な回復過程をたどるための準備 ・身体の準備 ・精神的準備 ・術後環境の準備	講義		
		(5) 手術中の看護	①手術室の構造と設備 ②術中看護の目標 ③手術室入室から退室まで ④手術室看護師の役割	講義		
		(6) 手術後の看護	①術後看護の目標 ②術後の身体的・精神的変化に基づいた看護 ・術直後から麻酔覚醒まで ・麻酔覚醒から創傷治癒修復まで ③全身麻酔下で手術療法をうける対象の術後の標準看護計画 ④社会復帰への援助	講義		
	2. 集中治療を受ける対象の看護が理解できる。	(1) 集中治療とは	①集中治療とは ②集中治療を受ける環境	講義		
		(2) 集中治療を受ける対象への看護	①集中治療を受ける対象の特徴 ②集中治療を受ける家族の特徴 ③集中治療を受ける対象への看護	講義		
	3. 医療機器の原理と取り扱い方が理解できる。	(1) 医療機器の原理	①ME機器とは ②ME機器使用のための基礎知識 ③ME機器取り扱い上の留意事項	講義		
		(2) 医療機器の取り扱い方と操作	①医療機器の取り扱い方と操作の実際 <心電計 人工呼吸器 輸液ポンプ ベッドサイドモニター シリンジポンプ>	演習		
	テキスト	「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社				
	成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	臨床看護総論	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	1. 疾病の経過をふまえた看護について学ぶ。 2. 主要症状を示す対象の看護について学ぶ。 3. 特殊な検査・治療を受ける対象の看護について学ぶ。				
授業のキーワード	経過別看護 痛み 呼吸障害 意識障害 血管造影 内視鏡 核医学検査 穿刺 ドレナージ 放射線療法				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 疾病の経過をふまえた看護が理解できる。	(1) 疾病の経過をふまえた看護とは (2) 急性期の対象の看護 (3) 回復期の対象の看護 (4) 慢性期の対象の看護 (5) 終末期の対象の看護	① 疾病の経過とは ② 疾病の経過と特徴をふまえた看護の意義 ① 急性期とは ② 急性期にある対象の特徴 ③ 急性期にある対象の看護 ① 回復期とは ② 回復期にある対象の特徴 ③ 回復期にある対象の看護 ① 慢性期とは ② 慢性期にある対象の特徴 ③ 慢性期にある対象の看護 ① 終末期とは ② 終末期にある対象の特徴 ③ 終末期にある対象の看護	講義 講義 講義 講義 講義	
	2. 主要症状〔疼痛・呼吸障害・意識障害〕を示す対象の看護が理解できる。	(1) 症状をふまえた看護とは (2) 痛みのある対象の看護 (3) 呼吸障害のある対象の看護 (4) 意識障害のある対象の看護	① 症状とは ② 症状をふまえた看護の意義 ① 痛みとは ② 痛みがある対象のアセスメント ③ 痛みがある対象の看護 ① 呼吸障害とは ② 呼吸障害がある対象のアセスメント ③ 呼吸障害がある対象の看護 ④ 酸素療法を受ける対象の看護 <酸素吸入・酸素ボンベの取り扱い> ⑤ 呼吸を整えるための看護 <吸入> <<吸引>> ① 意識障害がある対象の看護	講義 講義 講義 演習 講義 演習 講義	
	3. 特殊な検査をうける対象の看護が理解できる。	(1) 血管造影をうける対象の看護 (2) 内視鏡をうける対象の看護 (3) 核医学検査をうける対象の看護 (4) 穿刺をうける対象の看護	① 血管造影の目的・適応・種類 ② 血管造影をうける対象の看護 ① 内視鏡の目的・適応・種類 ② 内視鏡をうける対象の看護 ① 核医学検査の目的・適応・種類 ② 核医学検査をうける対象の看護 ① 穿刺の目的・適応・種類 ② 穿刺をうける対象の看護	講義 講義 講義 講義	

	4. 特殊な治療をうける対象の看護が理解できる。	(1) ドレナージをうける対象の看護	① ドレナージの目的・適応・種類 ② ドレナージをうける対象の看護	講義
テキスト	「新体系 看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論」 メヂカルフレンド社 「臨床看護学叢書 経過別看護」 メヂカルフレンド社 「系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔5〕消化器」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「看護過程に沿った対症看護」 学研 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法	筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	フィジカルアセスメント	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	フィジカルアセスメントの意義を理解し、身体各部の観察法およびアセスメントについて学ぶ。				
授業のキーワード	フィジカルアセスメント フィジカルイグザム				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. フィジカルアセスメントの意義が理解できる。	(1) フィジカルアセスメントの意義	①フィジカルアセスメントとは ②フィジカルアセスメントの目的 ③系統別アセスメントと症状別アセスメント	講義	
	2. フィジカルイグザムが理解できる。	(1) スクリーニング (2) フィジカルイグザムの方法	①基本情報の聞き取り ②一般状態の観察 ①視診 ②触診 ③聴診 ④打診	講義 講義	
	3. 系統別アセスメントが習得できる。	(1) 頭頸部・眼・耳・鼻・口のフィジカルアセスメント (2) 胸部（肺・胸郭）のフィジカルアセスメント (3) 胸部（心臓・血管系）のフィジカルアセスメント (4) 腹部のフィジカルアセスメント (5) 神経系のフィジカルアセスメント	①頭頸部・眼・耳・鼻・口のフィジカルアセスメントのポイント ②頭頸部・眼・耳・鼻・口のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ①胸部（肺・胸郭）のフィジカルアセスメントのポイント ②胸部（肺・胸郭）のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③フィジカルイグザミネーション 《胸部（肺・胸郭）》 ①胸部（心臓・血管系）のフィジカルアセスメントのポイント ②胸部（心臓・血管系）のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③フィジカルイグザミネーション 《胸部（心臓・血管系）》 ①腹部のフィジカルアセスメントのポイント ②腹部のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③フィジカルイグザミネーション 《腹部》 ①神経系のフィジカルアセスメントのポイント ②神経系のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③フィジカルイグザミネーション 《神経系》	講義 講義 演習 講義 演習 講義 演習	

	4. フィジカルアセスメント	(1) フィジカルアセスメントの実際	①事例患者のフィジカルアセスメント	演習
テキスト	「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」メディックメディア 「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」医学書院			
成績評価の方法	技術試験 ・ 筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護概論 I (地域と暮らし)	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実務 経 験	
授業の目的	地域での暮らしと、地域の生活環境が健康に及ぼす影響について学ぶ。				
授業のキーワード	暮らし 家族 地域 支え合い 生活環境と健康 地域共生社会				
時間	目 標	主 題	内 容		指導方法
	1. 地域での暮らしを理解できる。	(1)暮らすということ	①日々の時間の流れや場の広がり ②ライフイベント		講義
		(2)家族と暮らし	①家族の定義 ②家族の機能 ③家族の役割		講義
		(3)地域での暮らし	①地域で暮らす人々 ②地域でのつながり		講義
		(4) 支え合って生きていくということ	①支え合うということ ②支え合う人々 ③地域での支え合い ・地域共生社会と地域包括ケアシステム ・ICF(国際生活機能分類)の考え方		講義 演習
	2. 地域の生活環境が健康に及ぼす影響を理解できる。	(1) 地域の生活環境が健康に及ぼす影響	①文化的環境による影響 ②社会的環境による影響 ③自然環境による影響		講義
テキスト		「地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版			
成績評価の方法		筆記試験 100 %			

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護概論Ⅱ (健康と暮らしを支える看護)	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		地域・在宅看護の基盤となる概念について学ぶ。			
授業のキーワード		家族 医療保険制度 介護保険制度 地域包括ケアシステムにおける看護 マネジメント			
時間	目 標	主 題	内 容	指 導 方 法	
	1. 地域・在宅看護の対 象が理解できる。	(1) 地域・在宅看護 の対象	①地域で暮らす全ての人々 ・健康状態からみた対象 ・発達段階からみた対象 ②家族	講義	
		(2) 家族を理解する ための基礎理論	①家族システム理論 ②家族発達理論 ③家族ストレス対処理論	講義	
	2. 地域・在宅看護に関 連する法・制度・施 策を理解できる。	(1) 地域・在宅看護 に関連する法・ 制度・施策	①医療保険制度と施策 ②介護保険制度と施策 ③権利保障に関する法と施策 ④各保健・障害者などに関する法と施策	講義	
	3. 地域で暮らす人々の 健康と暮らしを支 える看護について 理解できる。	(1) 健康と暮らしを 支える看護を提 供する場	①医療機関 ②居宅 ③通所施設 ④入所施設 ⑤地域包括支援センター ⑥保健センター	講義	
		(2) 健康と暮らしを 支える看護	①地域包括ケアシステムにおける看護の 役割 ②自助・互助・共助・公助を支える看護 ③家族を支える看護 ④多職種・多機関との連携	講義	
	4. 地域での暮らしを継 続するためのマネ ジメントが理解で きる。	(1) 地域での暮らし を継続するため のマネジメント	①意志決定支援 ②ケアマネジメントの必要性 ③インフォーマルネットワークの維持	講義	
テキスト		「地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護概論Ⅲ (地域での療養を支える看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的		地域での療養生活を支える在宅看護・訪問看護について学ぶ。			
授業のキーワード		在宅看護 訪問看護 在宅看護における倫理 訪問看護ステーション 在宅療養における危機管理			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 在宅看護について理解できる。	(1) 在宅看護とは	①在宅看護の位置づけ ・在宅ケア ・在宅看護 ・訪問看護 ②在宅看護の役割 ③在宅看護の特徴	講義	
		(2) 訪問看護とは	①訪問看護とは ②訪問看護の制度と実施機関	講義	
		(3) 在宅看護における倫理	①療養者・家族の意思決定 ②個人情報保護・管理 ③サービス提供者の権利の保護	講義	
	2. 在宅療養を支える訪問看護ステーションの活動について理解できる。	(1) 在宅療養を支える訪問看護ステーション	①訪問看護ステーションの開設基準 ②従事者 ③対象者 ④サービス内容 ⑤訪問サービス開始までの流れ ⑥利用料 ⑦サービスにおける質の保証 ⑧訪問看護サービスの管理・運営	講義	
		(2) 在宅療養を支える訪問看護師の役割	①悪化の予防と異常の早期発見 ②療養環境の整備 ③社会資源に関する情報提供 ④多職種との連携・調整 ⑤療養方法や介護方法の指導 ⑥家族の健康管理・介護負担の軽減	講義	
		(3) 在宅療養における危機管理	①日常生活における安全管理 ②災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	講義	
	3. 在宅看護の課題と展望について理解できる。	(1) 在宅看護の課題と展望	①在宅看護を取り巻く社会の変化 ②今後の課題と展望	講義	
テキスト		「地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版 「地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術」 メディカ出版			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護援助論 I (健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的		地域で暮らす人々の健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護について学ぶ。			
授業のキーワード		健康教育 健康信念モデル 行動変容ステージモデル セルフケア理論 メタボリックシンドローム 歯科・口腔衛生			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 健康教育について理解できる。	(1) 健康教育とは	①健康教育とは ②健康教育の目標 ③健康教育の対象 ④健康教育の場	講義	
		(2) 健康教育のアプローチと方法	①個人と集団に対するアプローチ ②ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ ③教育技術 ④教材・教育媒体の活用 ⑤ITの活用	講義	
	2. 健康教育に必要な理論について理解できる。	(1) 健康教育に必要な理論	①健康信念モデル ②行動変容ステージモデル ③セルフケア理論	講義	
	3. 健康教育の実際について理解できる。	(1) 歯科・口腔衛生に関する健康教育	①歯科口腔保健の現状 ②オーラルフレイルへの対策 ③口腔機能向上のための健康教育	講義	
		(2) メタボリックシンドローム予防のための健康教育	①メタボリックシンドロームと生活習慣病 ②メタボリックシンドローム予防のための健康教育	講義	
テキスト		「ヘルスプロモーション」 メヂカルフレンド社			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅱ (在宅で療養する人と家族の看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		健康障害と療養の場に応じた看護と、療養の場の変化に伴う継続看護について学ぶ。			
授業のキーワード		在宅で療養する人のアセスメント 継続看護			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 健康障害と療養の場に応じた看護が理解できる。	(1) 健康障害と療養の場に応じた看護	①治療の場から在宅への移行期における看護 ②在宅リハビリテーション期における看護 ③在宅療養の安定期における看護 ④急性憎悪期における看護 ⑤終末期における看護 ⑥グリーフケア	講義	
		(2) 継続看護の意義と実際	①在宅療養を支える継続看護の意義 ②継続看護の実際	講義	
	2. 在宅で療養する人と家族の看護が理解できる。	(1) 在宅で療養する人と家族のアセスメント	①療養者の健康状態 ②療養者の生活史と生活状況・生活習慣 ③家族の生活状況・生活習慣 ④居住環境と地域環境 ⑤社会資源の活用状況 ⑥療養者と家族の価値観・要望 ⑦療養者と家族の生活に影響を及ぼす因子	講義	
		(2) 在宅で療養する人と家族の看護	①悪化の防止と異常の早期発見 ②療養環境の整備 ③社会資源に関する情報提供 ④多職種との連携・調整 ⑤療養方法や介護方法の指導 ⑥家族の健康管理・介護負担の軽減	講義	
		(3) 在宅で療養する人と家族の事例展開	①脳血管障害の療養者と家族の看護	講義 演習	
テキスト		「地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版 「地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術」 メディカ出版			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅲ (在宅療養を支える援助技術)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		在宅療養を支える援助技術について学ぶ。			
授業のキーワード		訪問時のマナー	在宅での日常生活援助	在宅での医療処置	
時間	目標	主題	内容		指導方法
	1. 訪問看護時のマナーと留意点について理解できる。	(1)訪問看護時のマナー	①在宅で看護を提供すること ②服装・持ち物 ③訪問看護時のマナー		講義
		(2)訪問看護時における留意点	①契約内容をふまえた援助 ②療養者・家族の意向をふまえた援助 ③療養者・家族の個別性をふまえた援助 ④療養環境に合わせた援助 ⑤コスト意識と物品の工夫		講義
	2. 在宅療養を支える日常生活援助技術を習得できる。	(1)日常生活援助	①住環境の整備 ②食事の援助 ③排泄の援助 ④清潔の援助 ＜入浴介助＞ ＜家庭にある物品を使用した洗髪・陰部洗淨＞		講義 演習
			⑤移動の援助 ＜福祉用具を使用した移動＞		講義 演習
	3. 在宅療養を支える医療処置に伴う援助を理解できる。	(1)医療処置に伴う援助	①服薬支援 ②経管栄養法 ＜経鼻栄養・胃瘻栄養＞		講義 演習
			③在宅輸液管理 ④膀胱留置カテーテル管理 ⑤在宅酸素療法 (HOT) ⑥在宅人工呼吸療法 (HMV) ⑦持続携行式腹膜灌流 (CAPD)		講義
			⑧在宅における褥瘡予防と褥瘡ケア ＜褥瘡予防と褥瘡ケア＞ ⑨在宅におけるストーマケア ＜人工肛門＞ 人工膀胱		演習 講義 演習
	テキスト	「地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版 「地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術」 メディカ出版 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法	筆記試験100%				

3. 成人看護の役割が理解できる。	(1)ヘルスプロモーション	①健康増進への主体性を高めるための支援 ②健康生活の具体的な支援 a) 栄養・食生活 b) 運動 c) 休養 d) ストレスマネジメント	講義
	(2)職場におけるヘルスプロモーション	①労働者の健康増進のための施策 ②健康増進のための産業保健活動 ③職場における健康づくり活動	講義 演習
4. 成人期における保健・医療・福祉システムが理解できる。	(3)健康問題をもつ対象への支援	①倫理的判断 ②意思決定支援 ③家族支援	講義
	(1)保健に関わる対策と実際	①健康増進・生活習慣病対策 ②健康危機管理 ③感染症対策 ④高齢者の医療の確保に関する法律に伴う保健事業	講義
	(2)医療にかかわる対策	①医療法の改正に伴う施策の変遷 ②21世紀の医療提供体制	講義
	(3)福祉にかかわる対策	①障害者福祉 ②高齢者福祉	講義
	(4)保健・医療・福祉の連携と実際	①生涯発達・健康状態からみた保健・医療・福祉システムの提供と実際 ②保健・医療・福祉システムの重要性	講義
テキスト	「系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会		
成績評価の方法	筆記試験100%		

分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論 I (急性期にある対象の看護)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 30 時間	実務 経験	
授業の目的		急性期にある成人期の対象の看護について学ぶ。			
授業のキーワード		急性期 周手術期 生命の危機 苦痛 不安・恐怖 家族の不安			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 急性期にある成人期の対象の看護を理解できる。	(1) 急性期にある成人期の対象の特徴	①身体面の特徴 a) 生命の危機 b) 身体の苦痛 c) セルフケアの不足 ②心理・社会面の特徴 a) 社会的役割への葛藤 b) 不安 c) 家族の不安	講義	
		(2) 急性期にある成人期の対象の看護	①症状の観察と救命 ②苦痛の軽減 ③不安・恐怖の軽減 ④セルフケアの援助 ⑤家族への援助	講義	
		(3) 循環器系で急性期にある成人期の対象の事例展開	①急性心筋梗塞で中年期にある対象(男性)の事例展開 《輸液ライン挿入中の対象の寝衣交換》	講義 演習 演習	
		(4) 周手術期にある成人期の対象の看護	①全身麻酔の SCP をもとに肺癌で肺切除術を受ける対象の計画立案 ・術前・術直後・術後 ②胸腔ドレーン(低圧持続吸引)留置の目的 ③胸腔ドレーン(低圧持続吸引)留置中の看護、ドレーン管理 <創傷処置> ④《体位ドレナージ》	講義 演習 演習 演習	
テキスト	「系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔3〕循環器」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術」 照林社 「看護過程に沿った対症看護」 学研 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2024-2026」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論Ⅱ (回復期にある対象の看護)	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		回復期にある成人期の対象の看護について学ぶ。			
授業のキーワード		回復期 機能回復 合併症・二次的障害の予防 障害受容 ライフスタイルの変更 生活の再構築			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 回復期にある成人期 の対象の看護を理解 できる。	(1) 回復期にある成人期 の対象の特徴	①身体面の特徴 a) 身体機能の低下 b) 障害 c) 合併症・二次的障害の出現 リスク d) セルフケアの不足 ②心理・社会面の特徴 a) 社会復帰に向けての不安 b) 障害の受容過程 c) ボディイメージの変容 d) ライフスタイルの変更に伴う ストレス	講義	
		(2) 回復期にある成人期 の対象の看護	①機能回復のための援助 ②異常の早期発見と悪化の 予防 ③セルフケアに関する援助 ④不安の軽減 ⑤障害受容への援助 ⑥社会復帰への援助 ⑦家族に対する援助	講義	
		(3) 脳神経系で回復期にある 成人期の対象の事例展開	①脳梗塞で中年期にある対象 (女性)の事例展開	講義 演習	
		(4) 言語障害のある対象の 看護	①言語障害とは ②失語症・構語障害のある 対象の看護 ③言語障害のある対象の リハビリテーション	講義	
		(5) 運動麻痺のある対象の 看護	①移動・移乗の援助 車いす・ベッド間の移乗 杖歩行	講義	
		(6) 運動器系に障害をもつ 回復期にある成人期 の対象の看護	①下肢切断術を受けた患者 の障害受容のための看護 ②牽引療法を受ける対象の 看護 ③ギプス療法を受ける対象 の看護	講義	
テキスト	「系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔10〕運動器」 医学書院 「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」 医学書院 「看護過程に沿った対症看護」 学研 「NANDA-I看護診断 定義と分類 2024-2026」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論Ⅲ (慢性期にある対象の看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
慢性期にある成人期の対象の看護について学ぶ。					
授業のキーワード	慢性期 生活習慣 自己管理 自己効力理論 エンパワーメントモデル 学習支援				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 慢性期にある成人期の対象の看護を理解できる。	(1) 慢性期にある成人期の対象の特徴	①身体面の特徴 a) 合併症・二次的障害の出現 b) 慢性的な症状による苦痛 ②心理・社会面の特徴 a) ライフスタイルの変更 b) 役割遂行の困難 c) 不安	講義	
		(2) 慢性期にある成人期の対象の看護に必要な理論	①病みの軌跡 ②自己効力理論 ③エンパワーメントモデル	講義	
		(3) 慢性期にある成人期の対象への学習支援	①学習支援の目標 ②学習支援の場 ③学習支援の時期 ④学習支援の進め方 a) アセスメント b) 目標の設定 c) 学習支援の計画立案 d) 実施 e) 評価	講義	
		(4) 慢性期にある成人期の対象の看護	①疾病の自己コントロールのための援助 ②ライフスタイルの変更への援助 ③不安の軽減 ④家族や社会との調整	講義	
		(5) 内分泌系で慢性期にある成人期の対象の事例展開	①糖尿病で中年期にある対象(男性)の事例展開 ②<<簡易血糖測定>>	講義 演習	
		(6) 腎不全で慢性期にある成人期の対象の看護	①シャントの管理 ②食事療法 ③ライフスタイル変更への援助 ④社会資源の活用	講義	
テキスト	「系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔6〕内分泌・代謝」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔8〕腎・泌尿器」 医学書院 「看護過程に沿った対症看護」 学研 「NANDA・I看護診断 定義と分類 2024-2026」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論Ⅴ (がん治療を受ける対象の看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的		がん医療の動向と看護の役割を理解し、がん治療を受ける対象の看護について学ぶ。			
授業のキーワード		がんサバイバー がんサバイバーシップ 放射線療法 薬物療法			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. がん医療の動向と看護の役割について理解することができる。	(1) がん医療の動向と看護の役割	①がん医療対策・看護のあゆみとがん対策基本法 ②がん対策推進基本計画 ③がん医療の均てん化における看護の役割	講義	
	2. がんと共に生きる対象者とその対象者を支える人々について理解することができる。	(1) がんサバイバーの理解	①がんサバイバーとは ②がんサバイバーが直面する課題 ③がんサバイバーシップとは ④がんサバイバーシップの視点から見たサポート ⑤がん診断・告知後のケアがん医療における地域包括ケア	講義	
	3. がん病変に対する治療とその看護について理解することができる。	(1) 放射線療法を受ける対象者の看護	①放射線療法とは ②放射線被曝防護対策 ③放射線療法の有害事象 ④放射線療法を受ける対象の看護	講義	
		(2) 薬物療法を受ける対象者の看護	①抗悪性腫瘍薬とは ②抗悪性腫瘍薬の主作用と副作用 ③抗悪性腫瘍薬投与管理における注意点 ④抗悪性腫瘍薬を受ける対象の看護	講義	
テキスト	「系統看護学講座 別巻 がん看護学」 医学書院 「系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	高齢者看護学概論	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的	高齢者の特徴とその生活を理解し、高齢者看護の概念を学ぶ。				
授業のキーワード	老年期 介護家族	高齢者 高齢者と社会	加齢と老化 権利擁護	生活 フレイル	高齢者と家族
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 老年期を生きる人々の特徴が理解できる。	(1) 老年期とは	①老年期の定義 ②加齢と老化 ③生活の変化 ④老年期の発達と成熟の意味	講義	
		(2) 加齢に伴う変化	①身体的機能の変化 ＜高齢者擬似体験＞ ②心理・精神的機能の変化 ③社会的機能の変化 ④フレイル ⑤疾病をめぐる特徴	講義 演習	
	2. 高齢者をとりまく社会について理解できる。	(1) 高齢社会の動向	①統計からみた我が国の高齢者 ②高齢化の国際的動向	講義	
		(2) 高齢者と家族の支援	①介護家族の生活 ②家族エンパワメントの視点 ③介護家族の課題	講義	
	3. 高齢者看護の基本的な考え方が理解できる。	(1) 高齢者看護の基本	①高齢者のQOL ②高齢者看護活動の特性 ③高齢者看護の原則 ④高齢者看護に適用する理論・概念	講義	
		(2) 高齢者看護の倫理	①高齢者の権利擁護 ②高齢者の虐待	講義	
テキスト	「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	高齢者看護学援助論Ⅰ (健康支援と日常生活援助)	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	高齢者の健康と日常生活を支える看護について学ぶ。				
授業のキーワード	高齢者の健康	高齢者の日常生活動作評価	高齢者の日常生活援助	廃用症候群	
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 高齢者の健康を支える 看護が理解できる。	(1) 高齢者の健康と看護	①健康生活の維持と快適に過ごす ための援助 ②高齢者のヘルスプロモーション	講義	
		(2) 高齢者の日常生活活 動の評価	①高齢者総合機能評価「CGA」 ②基本的なADLの評価 ・カツインデックス ・バーセルインデックス ・FIM ③手段的ADLの評価 ・IADL尺度 ・老研式活動能力指標	講義	
		(3) 廃用症候群のアセス メントと看護	①廃用症候群の定義 ②廃用症候群の原因とおもな症状 ③廃用症候群の予防策 〈自動運動・他動運動〉	講義 演習	
		(4) 転倒のアセスメント と看護	①転倒が及ぼす影響 ②転倒の原因 ③転倒の予防	講義 演習	
	2. 高齢者の日常生活を支 える看護が理解できる。	(1) 加齢に伴う主要な機 能障害の看護	①摂食障害、嚥下障害 ②脱水 ③排尿障害 ④排便障害 〈おむつ交換・摘便〉 ⑤睡眠障害 ⑥視覚障害 ⑦聴覚障害 ⑧コミュニケーション障害	講義 演習 講義	
テキスト	「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	高齢者看護学援助論Ⅱ (認知症と終末期の看護)	担当 講師	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実 務 経 験	
授業の目的		認知症や終末期にある高齢者の看護と、高齢者施策の現状と課題について学ぶ。			
授業のキーワード		認知症看護 高齢者施策	地域包括ケアシステム 介護保険	終末期にある高齢者	
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 認知症のある高齢者について理解できる。	(1) 認知症のある高齢者	①認知症のある高齢者 ・認知症の定義 ・認知症の基本構造 ・認知症の診断・治療・予防	講義	
	2. 認知症のある高齢者の看護が理解できる。	(1) 認知症のある高齢者の看護	①認知症が高齢者の生活に与える影響 ②認知症のある高齢者とのコミュニケーション ③認知症のある高齢者の日常生活自立支援 ④認知症のある高齢者の心身の活性化 ⑤認知症の精神症状・行動障害への対応 ⑥認知症のある高齢者の安全を守るための援助 ・安全面、健康管理、事故予防 ⑦認知症のある高齢者を取り巻く環境と環境調整 ⑧認知症のある高齢者の家族への支援	講義	
	3. 高齢者のエンドオブライフケアが理解できる。	(1) 高齢者のエンドオブライフケア	①高齢者の終末期の特徴 ・エンドオブライフ ②苦痛の緩和 ③人生最期への支援 ・アドバンスケアプランニング ・アドバンスディレクティブ ・リビングウィル ④高齢者の人格の尊重 ⑤家族への援助 ・グリーフケア	講義	
	4. 高齢者施策が理解できる。	(1) 高齢者施策の現状	①高齢者の保健・医療・福祉施策の変遷 ②高齢者施策の基本的な考え方 ・高齢社会対策基本法 ③健康づくりの総合的推進 ④地域包括ケアシステム ⑤介護保険 ⑥高齢者医療制度	講義	
		(2) 高齢者施策の課題	①高齢者の要介護者数の増加 ②認知症のある高齢者の増加 ③介護サービスや支援サービスの提供 ④超高齢社会に対応するための施策	講義	

		(3) 認知症に対する施策	①認知症のある高齢者へのケアシステム <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症予防教室 ・ グループホームの整備 ・ 相談事業 ②認知症のある高齢者の人権と権利擁護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 権利擁護事業 	講義
テキスト	「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会 「福祉小六法」 中央法規			
成績評価の方法	筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	高齢者看護学援助論Ⅲ (検査・治療に伴う看護)	担当 講 師	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実 務 経 験	
授業の目的	検査・治療を受ける高齢者に対する看護について学ぶ。				
授業のキーワード	高齢者と薬物療法	高齢者と検査	高齢者と手術療法	退院支援	退院調整
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 検査、治療を受ける高齢者の看護が理解できる。	(1) 検査、治療を受ける高齢者の看護	①薬物療法 ②検査 ③外来受診 ④手術療法	講義	
		(2) 高齢者の退院支援・高齢者の退院調整	①退院を取り巻く高齢者の社会状況 ②退院支援における看護の実際と役割 ・多職種連携 ・地域との連携	講義	
		(3) 手術療法を受ける高齢者の事例展開	①大腿骨頸部骨折で手術療法を受ける認知症の高齢者の事例展開 ・術前～退院まで	講義 演習	
テキスト	「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「系統看護学講座 臨床外科看護総論」 医学書院 「系統看護学講座 運動器」 医学書院 「NANDA-I看護診断 定義と分類 2024-2026」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	小児看護学概論Ⅰ (小児看護の役割)	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実 務 経 験	
授業の目的		子どもと家族の健康を支えるための看護について学ぶ。			
授業のキーワード		子ども 家族 子どもの権利 インフォームド・アセント アドボカシー			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 子どもと家族を取り巻く社会の状況を理解できる。	(1)子どもと家族の理解	①子どもの概念 ②ライフサイクルからみた小児期 ③子どもと家族	講義	
		(2)子どもを取り巻く社会状況	①人口動態からみた統計の変化 ②子ども観の変遷 ③子どもと家族を支える法律と社会制度 ・母子保健と子育て支援 ・学校保健 ・予防接種 ・難病・障害児保健福祉	講義 演習	
	2. 小児看護の役割を理解できる。	(1)小児看護とは	①小児看護の対象 ②小児看護の場 ③小児看護の目標 ④小児看護の役割	講義	
		(2)小児看護の変遷	①小児医療の変遷 ②小児看護の変遷 ③小児看護の課題	講義	
	3. 子どもの権利と看護を理解できる。	(1)子どもの人権と看護	①子どもの人権 ②子どもの虐待 ③子どもの権利に関する法律・施策	講義	
		(2)小児看護における倫理	①小児看護における倫理的問題 ②小児看護と倫理的配慮	講義	
テキスト	「ナースンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	小児看護学概論Ⅱ (子どもの成長と発達)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	子どもの成長・発達を理解し、健康増進のための子どもと家族への支援について学ぶ。				
授業のキーワード	成長・発達 発達段階 発達課題 エリクソンの自我発達理論 ピアジェの認知発達理論 親子関係論				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 子どもの成長・発達について理解できる。	(1) 子どもの成長・発達とは	①成長・発達の原則 ②成長・発達に影響する因子 ③成長・発達の評価	講義	
		(2) 小児看護に必要な理論	①セルフケア理論 ②エリクソンの自我発達理論 ③ピアジェの認知発達理論 ④親子関係論 ⑤家族理論	講義	
	2. 子どもの発達段階の特徴と健康増進のための看護について理解できる。	(1) 新生児・乳児の特徴と健康増進のための看護	①新生児・乳児期の成長・発達 ②新生児・乳児期の養育 ・新生児・乳児の栄養 ・遊びと運動	講義	
		(2) 幼児の特徴と健康増進のための看護	①幼児期の成長・発達 ②幼児期の養育 ・幼児の栄養 ・基本的生活習慣の獲得 ・安全対策 (事故防止)	講義 演習	
		(3) 学童の特徴と健康増進のための看護	①学童期の成長・発達 ②学童期における健康増進の支援 ・栄養と食生活 ・学習と遊び	講義	
		(4) 思春期の子どもの特徴と健康増進のための看護	①思春期の成長・発達 ②思春期における健康増進の支援 ・第二性徴、性意識 ・精神的自立 (親離れ) ③思春期の健康問題と児と家族への看護	講義	
テキスト	「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」 メディカ出版				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	小児看護学援助論 I (疾患・障害のある子どもの看護)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 健康障害のある子どもと家族への看護について学ぶ。 2. 子どもの主な疾患の病態生理、検査、診断、治療について学ぶ。			
授業のキーワード		子どもの疾病・障害 外来受診 入院 在宅 虐待			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 疾病・障害のある子どもと家族への看護が理解できる。	(1) 疾病・障害が子どもと家族に与える影響	① 疾病・障害に対する子どもの反応 ② 疾病・障害のある子どもと家族の反応	講義	
		(2) 子どもの健康問題と看護	① 症状の改善と苦痛の緩和 ② 治療における意思決定の支援 ③ 発達段階に即したセルフケアの支援 ④ 子どもの日常生活にかかわる援助	講義	
		(3) 健康問題のある子どもと家族の看護	① 親・きょうだいへの支援 ② 家族関係の調整と社会資源の活用	講義	
	2. 主要症状を示す子どもと家族の看護が理解できる。	(1) 主要症状を示す子どもと家族の看護	① 不機嫌 ② 啼泣 ③ 痛み ④ 発熱 ⑤ 嘔吐 ⑥ 下痢 ⑦ 脱水 ⑧ けいれん ⑨ 発疹	講義	
	3. さまざまな場や状況にある子どもと家族への看護が理解できる。	(1) 入院中の子どもと家族の看護	① 入院環境と家族 ② 子どもの入院が家族に及ぼす影響と家族の反応 ③ 入院生活適応への支援 ④ 退院後の生活支援	講義	
		(2) 外来における子どもと家族の看護	① 外来を受診する子どもと家族の特徴 ② 外来を受診する子どもと家族の看護 ・ 小児外来の環境 ・ 外来看護の役割	講義	
		(3) 生活制限のある子どもと家族の看護	① 活動制限のある子どもと家族の看護 ② 隔離中の子どもと家族の看護 ③ 食事制限のある子どもと家族の看護	講義	
		(4) 在宅における子どもと家族の看護	① 小児在宅ケアの現状 ② 在宅療養を必要とする子どもと家族の特徴 ③ 在宅療養を必要とする子どもと家族の看護	講義	
		(5) 被虐待児と家族の看護	① 虐待が子どもに与える影響 ② 虐待のサイン ③ 被虐待児および家族への看護	講義	

4. 子どもの主な疾患の病態生理、検査、診断、治療について理解できる。	(6) 災害を受けた子どもと家族の看護	①災害を受けた子どもの心と身体への影響 ②災害時の子どもと家族への看護	講義
	(1) 新生児・低出生体重児の疾患	①呼吸窮迫症候群 ②新生児仮死 ③高ビリルビン血症	講義
	(2) 染色体異常	①ダウン症候群 ②ターナー症候群 ③軟骨無形成症	講義
	(3) 感染症	①麻疹 ②風疹 ③水痘 ④流行性耳下腺炎 ⑤百日咳 ⑥インフルエンザ ⑦伝染性単核球症 ⑧手足口病	講義
	(4) 消化器疾患	①腸重積 ②幽門狭窄症 ③急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎	講義
	(5) 循環器疾患	①先天性心疾患 ②川崎病	講義
	(6) 呼吸器疾患	①気管支喘息 ②気管支炎 ③肺炎 ④クループ症候群	講義
	(7) 神経疾患	①てんかん ②熱性けいれん ③脳性麻痺 ④筋ジストロフィー	講義
	(8) アレルギー疾患	①アトピー性皮膚炎 ②食物アレルギー	講義
	(9) 腎疾患	①ネフローゼ症候群 ②糸球体腎炎	講義
	(10) 代謝、内分泌疾患	①低身長 ②フェニルケトン尿症 ③甲状腺機能低下症 ④I型糖尿病	講義
(11) 血液・腫瘍疾患	①鉄欠乏性貧血 ②特発性血小板減少性紫斑病 ③血友病 ④白血病 ⑤ウイルス腫瘍 ⑥神経芽腫	講義	
テキスト	「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」 メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護」 メディカ出版		
成績評価の方法	筆記試験 100%		

分野	専門分野	授業科目	小児看護学援助論Ⅱ (健康の段階・発達段階に応じた看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 疾病の経過をふまえた子どもと家族への看護について学ぶ。 2. 発達段階に応じた子どもへの看護技術を学ぶ。			
授業のキーワード		疾病の経過 発達段階 看護技術 プレパレーション ディストラクション 成人診療科への移行支援 (トランジション)			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 疾病の経過をふまえた子どもと家族への看護を理解できる。	(1) 急性期にある子どもと家族の看護 (2) 周手術期の子どもと家族の看護 (3) 慢性期にある子どもと家族の看護 (4) 終末期にある子どもと家族の看護 (5) 気管支喘息のある子どもと家族の事例展開	①急性期の子どもと家族の特徴 ②急性期の子どもと家族の看護 ①子どもの手術の特徴 ②手術を受ける子どもの反応 ③周手術期の子どもと家族の看護 ④退院への指導や援助と継続看護 ①慢性期の子どもと家族の特徴 ②慢性期の子どもと家族の看護 ③成人診療科への移行期にある健康障害の子どもと家族への支援 ①終末期にある子どもと家族の特徴 ②終末期にある子どもと家族の看護 ①気管支喘息の乳児期、幼児期、学童期にある対象の事例展開	講義 講義 講義 講義	
	2. 小児看護に必要な看護技術を習得できる。	(1) 検査・処置を受ける子どもと家族の看護 (2) 発達段階に応じた看護技術	①発達に応じた説明と同意 ②子どもの安全・安楽への看護 ③子どもの家族への看護 ①安全な入院環境の整備 ②バイタルサイン ③身体測定 ④与薬 ⑤輸液管理 ⑥吸入療法 ⑦酸素療法 ⑧検体採取 ⑨乳幼児、学童に必要な看護技術 《援助場面におけるプレパレーション・ディストラクション》 《バイタルサイン測定》 《吸入療法 経口与薬》 《輸液管理》 《骨髄穿刺・腰椎穿刺》	講義 講義	
テキスト	「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」 メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術」 メディカ出版 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2024-2026」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	ウイメンズヘルス看護概論 I (女性の健康と看護)	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的		ウイメンズヘルスの概念、及び、対象を取り巻く社会の変遷・動向から女性の健康と看護について学ぶ。			
授業のキーワード		ウイメンズヘルス リプロダクティブヘルス / ライツ ヘルスプロモーション 母性 性 セクシュアリティ 生命倫理 母子保健			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. ウイメンズヘルス看護の基盤となる概念を理解する。	(1) ウイメンズヘルスの概念	①ウイメンズヘルスとは ②リプロダクティブヘルス/ライツ ③ヘルスプロモーション ④女性の生涯にわたる健康教育	講義	
		(2) 母性と看護	①親性、母性および父性の概念 ②母子関係に関する概念 ③母性看護の対象と役割 ④母性看護の場と職種	講義	
		(3) 人間の性と生殖	①人の発生と分化 ②人間の性の特徴 ③セクシュアリティ	講義	
		(4) 女性の意思決定支援と倫理	①生命倫理と看護倫理 ②倫理的意志決定と支援 ・権利と擁護 ・自己決定(意思決定)と支援 ・プライバシーの保護	講義	
	2. 女性を取り巻く社会の現状と健康をめぐる課題について理解する。	(1) 女性を取り巻く環境の変化	①家族および地域社会の変化	講義	
		(2) 女性の健康と社会	①母子保健統計からみた動向 ②母子保健関連の法律・施策 ③母子保健施策からみた現状と課題 ・育児不安と虐待 ・性暴力 ④在日外国人の母子へ支援 ⑤災害時における支援	講義	
テキスト		「母性看護学 I 概論 第3版」医歯薬出版株式会社 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	ウイメンズヘルス看護概論Ⅱ (女性のライフサイクルと看護)	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実 務 経 験	
授業の目的		女性のライフサイクル各期の特徴と女性特有の健康問題と看護について学ぶ。			
授業のキーワード		ライフサイクル 性機能 プレコンセプションケア 家族計画 不妊・不育症 育児不安 虐待 更年期障害 女性生殖器疾患			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 女性のライフサイクルの特徴と健康、ライフサイクル各期の健康問題に対する看護について理解する。	(1) 女性のライフサイクル (2) 思春期の健康と看護 (3) 成人期の健康と看護 (4) 更年期の健康と看護 (5) 老年期の健康と看護 (6) リプロダクティブ・ヘルスにおける看護	①女性のライフサイクルと健康 ②現代女性のライフサイクルの変化 ①思春期の特徴と健康教育 第二次性徴 月経 栄養 プレコンセプションケア ②思春期の健康問題と看護 月経異常 貧血 摂食障害 ③性がもたらす問題の多様性 人工妊娠中絶 性感染症 性暴力 ①成人期の特徴と健康教育 婚姻と就労 家族計画 子育て ②成人期の健康問題と看護 不妊・不育症と生殖補助医療 ③子育てに関わる問題 育児不安と虐待 ①更年期の特徴と健康教育 閉経 ②更年期におこりやすい健康問題と看護 ③更年期障害 ①老年期の特徴と健康教育 ②老年期におこりやすい健康問題と看護 ①不妊治療を受ける女性と家族への看護 ②先天異常をもつ子どもを出産した女性と家族への看護 ③周産期に子どもを亡くした女性と家族への看護	講義 講義 講義 講義 講義 講義	
	2. 女性の生殖機能に影響を与える健康問題の看護について理解する。	(1) 女性生殖器疾患をもつ対象の看護	①診察時の看護 ②子宮疾患・卵巣疾患対象の看護 手術療法、化学療法、放射線療法を受ける対象の看護 ③乳房疾患対象の看護 手術療法、化学療法、放射線療法を受ける対象の看護	講義	
テキスト	「系統看護学講座 母性看護学〔1〕母性看護学概論」医学書院 「母性看護学Ⅱ 周産期各論 第3版」医歯薬出版株式会社 「系統看護学講座 成人看護学〔9〕女性生殖器」医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	ウイメンズヘルス看護援助論 I (妊娠期・分娩期の看護)	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		妊娠期・分娩期の生理的変化や経過及び看護を学ぶ。また、妊娠期・分娩期に起こりうる正常からの逸脱が母子、家族に及ぼす影響について学ぶ。			
授業のキーワード		妊娠 胎児 分娩 生理的変化 早期母子接触 愛着形成 ハイリスク妊娠 異常妊娠 異常分娩			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 正常な経過をたどる妊婦の看護が理解できる。	(1) 妊娠の生理と身体的、心理・社会的特徴と看護	①妊娠の成立 ②母体の生理的変化 ③胎児の発育とその生理 ④妊婦の健康診査 ・保健指導、妊娠の届け出 ・胎児心拍モニタリング <腹囲、子宮底測定> ⑤妊娠の受容と看護 胎児との愛着形成 ⑥妊婦と家族の看護 ⑦出産準備への看護 ・分娩前教育 ・バースプラン	講義 演習 講義	
	2. 妊娠期に起こりうる正常からの逸脱と妊婦の看護が理解できる。	(1) 妊娠期に起こりうる正常からの逸脱と看護	①妊娠期の感染症 ②妊娠疾患 ・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病 ・血液型不適合妊娠 ④多胎妊娠 ⑤妊娠持続期間の異常 ⑥ハイリスク妊婦の看護	講義	
	3. 正常な経過をたどる産婦の看護が理解できる。	(1) 分娩の進行と産婦の身体的、心理・社会的特徴と看護	①分娩の要素 ②分娩の経過 <胎児付属物の観察> ③産婦と家族の看護 ・早期母子接触・バースレビュー	講義 演習	
	4. 分娩期に起こりうる正常からの逸脱と産婦の看護が理解できる。	(1) 分娩期に起こりうる正常からの逸脱に伴う看護	①分娩に起こりうる正常からの逸脱 ・娩出力の異常 ・産道の異常 ・胎児および胎児付属物に関する異常 (羊水混濁・MASを含む) ・分娩時間に関する異常 ・出血に関する異常 ・産科ショック ②器械分娩 ③帝王切開術 ④分娩誘発と陣痛促進	講義	
	5. 事例を用いて妊娠期・分娩期の看護が理解できる。	(1) アセスメントと看護	①妊娠期のアセスメントと看護 ②分娩期のアセスメントと看護	講義 演習	
テキスト	「母性看護学Ⅱ 周産期各論 第3版」医歯薬出版株式会社				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	ウイメンズヘルス看護援助論Ⅱ (産褥期・新生児期の看護)	担当 講師	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		産褥期・新生児期の生理的変化や経過及び看護を学ぶ。また、産褥期・新生児期に起こりうる正常からの逸脱が、母子、家族に及ぼす影響について学ぶ。			
授業のキーワード		産褥 退行性変化 進行性変化 役割獲得 新生児 子宮外適応現象 愛着・母子相互作用 産後うつ			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 正常な経過をたどる褥婦の看護が理解できる。	(1) 褥婦の身体的、心理・社会的変化と特徴 (2) 褥婦と家族の看護	①退行性変化 ②進行性変化 ③褥婦・家族の心理的变化 ①身体機能回復への看護 ・生殖器の復古の観察と看護 ・全身の復古の観察と看護 ・退院指導 ②母乳栄養確立への看護 ・乳房・乳頭の観察 ・栄養 ・授乳介助と指導（授乳、搾乳） ③役割獲得への看護 ・愛着・母子相互作用 ・育児技術 ・産後ケア ・子育て支援	講義 講義	
	2. 産褥期に起こりうる正常からの逸脱と褥婦の看護が理解できる。	(1) 産褥期に起こりうる正常からの逸脱と褥婦の看護	①産褥期に起こりうる正常からの逸脱 ・子宮復古不全 ・産褥感染症 ・産褥血栓症 ・マタニティブルーズ ・産後うつ ②特別な支援を要する褥婦の看護	講義	
	3. 正常な経過をたどる新生児の看護が理解できる。	(1) 新生児の機能と生理的变化 (2) 出生直後の看護 (3) 新生児の生理的变化と看護	①新生児の機能 ②生理的变化 ・生理的体重減少 ・生理的黄疸 ①出生直後の観察・測定 ②出生直後のアセスメントと看護 ・新生児蘇生のアルゴリズム ①子宮外生活への適応状態 ・日々の観察とアセスメント ②子宮外生活適応への看護 保育環境 沐浴・感染予防 栄養 《全身の観察・バイタルサインの測定、更衣・沐浴・臍処置、移動・移送》 <調乳> <身体測定>	講義 講義 講義 演習	
	4. 新生児期に起こりうる正常からの逸脱と新生児の看護が理解できる。	(1) 新生児期に起こりうる正常からの逸脱と新生児の看護	①新生児に起こりうる正常からの逸脱 ・低出生体重児 ・高ビリルビン血症 ・分娩外傷	講義	

	<p>5. 入院中の医療事故と予防策が理解できる。</p> <p>6. 事例を用いて産褥期・新生児期の看護が理解できる。</p>	<p>(1) 医療事故と予防策</p> <p>(1) アセスメントと看護</p>	<p>①新生児に起こりやすい医療事故</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取り違え防止 ・ 新生児体動モニタ <p>①ヘルスプロモーション型看護診断</p> <p>②産褥期のアセスメントと看護</p> <p>③新生児期のアセスメントと看護</p>	<p>講義</p> <p>講義 演習</p>
テキスト	<p>「母性看護学Ⅱ 周産期各論 第3版」 医歯薬出版株式会社</p> <p>「NANDA-I看護診断 定義と分類 2024-2026」 医学書院</p>			
成績評価の方法	<p>筆記試験100%</p>			

分野	専門分野	授業科目	精神看護学概論 I (精神看護の概念と健康支援)	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	精神看護の概念と現代社会の健康問題、健康支援について学ぶ。				
授業のキーワード	精神の健康 パーソナリティの発達 ストレス 危機 精神の健康問題 健康支援 トラウマインフォームドケア (TIC)				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神看護の概念を理解できる。	(1) 精神看護の概念	①精神の健康とは ②精神障害のとらえ方 ③精神看護の対象 ④精神看護の役割 ・リエゾン看護	講義	
		(2) 精神の構造・機能とパーソナリティの発達	①フロイトの3層の人格構造 ②防衛機制 ③パーソナリティの発達理論 ・エリクソンの漸性的発達理論	講義	
		(3) ストレス	①ストレスとは ②ストレス反応の現れ方 ③ストレスコーピング	講義	
		(4) 危機	①危機とは ②危機モデル ・アギュララとメズニックのモデル ・フィンクのモデル ③危機介入 ・フィンクの危機モデルを活用した介入	講義	
	2. 現代社会における精神の健康問題、健康支援について理解できる。	(1) ライフサイクルにおける危機	①乳幼児における危機 ②学童期における危機 ③思春期・青年期における危機 ④壮年期・中年期における危機 ⑤老年期における危機	講義	
		(2) 精神の健康問題と健康支援	①精神の健康問題 ・自殺 ・ひきこもり ・不登校 ・自傷行為 ・薬物乱用 ・依存症 ・災害被害 ・犯罪被害 ・過労死 ・虐待、DV ②精神の健康支援 ・トラウマインフォームドケア	講義	
テキスト	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	精神看護学概論Ⅱ (精神保健福祉活動の動向)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的		1. 精神医療の現状と精神保健医療福祉施策および倫理的課題について学ぶ。 2. 精神に障害のある対象の地域生活を支える精神保健医療福祉施策について学ぶ。			
授業のキーワード		精神保健医療の変遷 精神保健福祉法 心神喪失者等医療観察法 障害者総合医療法			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神保健医療福祉と法制度について理解できる。	(1) 精神保健医療福祉の変遷	①精神病概念の定義 ②精神病患者の処遇の歴史 ③現行法にいたるまでの法律の変遷 ④社会的変遷と差別 ・社会的烙印 (スティグマ)	講義	
		(2) 精神保健医療福祉施策の動向	①我が国における精神保健医療福祉施策の現状 ②今後の課題	講義	
		(3) 精神保健医療福祉領域における倫理的課題	①看護の倫理とアドボカシー ②インフォームドコンセント ③精神に障害のある対象の権利擁護と自己決定	講義	
	2. 精神保健医療福祉とリハビリテーションについて理解できる。	(1) 精神科におけるリハビリテーションの考え方	①全人的リハビリテーション ②国際生活機能分類 (ICF) の考え方	講義	
		(2) 地域精神医療保健医療福祉における法制度と社会資源の活用	①治療を継続するための場 ・病院、診療所 ・デイケア、ナイトケア ・訪問看護 ②精神保健医療福祉の法制度 ・精神保健福祉法 ・心神喪失者等医療観察法 ・障害者総合支援法 ③障害者総合支援法とそのサービス ④雇用および就労支援 ⑤家族や当事者によるサポート ・ピアサポート ⑥精神科チームによる連携 ⑦在宅医療との連携	講義	
テキスト	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	精神看護学援助論 I (疾患の理解と看護の特徴)	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 主な精神疾患、検査、治療について学ぶ。 2. 精神に障害のある対象の特徴を理解し、基本的な援助について学ぶ。			
授業のキーワード		精神疾患	精神症状	精神科治療	治療的関わり リスクマネジメント
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神症状のとらえ方 と主な疾患、検査、治療について理解できる。	(1) 精神医学の基礎的知識 (2) 精神症状のとらえ方 (3) 主な精神疾患の理解 (4) 医学的検査と心理検査 (5) 主な精神科医療	①精神医学を学ぶ理由 ②精神医学の対象 ①感情の障害 ②知覚の障害 ③思考の障害 ④意欲の障害 ⑤記憶の障害 ⑥知能の障害 ⑦意識の障害 ⑧自我意識の障害 ①精神疾患の分類 ・国際疾病分類（ICD分類法） ・DSM分類法 ②神経発達症 ・自閉症スペクトラム ・知的能力障害 ③統合失調症 ④抑うつ障害と双極性障害 ⑤不安障害 ⑥強迫性障害 ⑦ストレス関連障害 ⑧解離性障害 ⑨身体症状症および関連症 ⑩摂食障害 ⑪物質関連障害 ⑫パーソナリティ障害 ①医学的検査 ・脳検査 ②心理検査 ・知能検査 ・性格検査 ①薬物療法 ②精神療法 ・CBT ③社会療法 ・作業療法、SST ④電気けいれん療法	講義 講義 講義 講義 講義	

	<p>2. 精神に障害のある対象への看護の特徴と基本的援助について理解できる。</p>	<p>(1)精神に障害のある対象の理解</p> <p>(2)精神科看護におけるケアの方法</p> <p>(3)環境の治療的意義とその活用</p> <p>(4)リスクマネジメント</p>	<p>①精神に障害のある対象、家族の特性</p> <p>①治療的関わりの考え方 ・看護師に求められるコミュニケーション技術</p> <p>②日常生活行動の援助 ・入院患者の日常生活 ・治療としての生活援助</p> <p>③服薬治療に関わる援助</p> <p>①病院・病棟の環境</p> <p>②環境の治療的意義</p> <p>③環境の治療的活用</p> <p>①自殺</p> <p>②暴力行為 ・包括的暴力防止プログラム</p> <p>③無断離院</p> <p>④誤嚥・窒息</p> <p>⑤転倒・転落</p>	<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p>
テキスト	<p>「ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版</p> <p>「ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践」 メディカ出版</p>			
成績評価の方法	筆記試験100%			

分野	専門分野	授業科目	精神看護学援助論Ⅱ (疾病の経過に応じた看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	精神に障害のある対象の健康回復に向けた看護援助について学ぶ。				
授業のキーワード	経過別	安全確保	現実感の獲得	セルフケアの援助	社会復帰支援
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神に障害のある対象の疾病を経過と症状、治療をふまえた看護について理解できる。	(1)急性期～回復期にある対象の看護	①本人および医療者の安全確保 ・行動制限、隔離、拘束 ②身体状態のアセスメント ③家族への援助 ④睡眠と休息の確保 ⑤現実感の獲得 ⑥治療への合意形成 ⑦再発防止のための心理教育	講義	
		(2)慢性期にある対象の看護	①セルフケアの援助 ②社会復帰の向けての支援 ③長期入院患者の退院支援 ④地域における支援システムの活用 ⑤訪問・外来での看護の役割	講義	
		(3)様々な精神症状を呈する対象の看護	①幻覚・妄想 ②意欲低下 ③不安 ④脅迫 ⑤希死念慮 ⑥躁、抑うつ ⑦依存 ⑧攻撃 ⑨操作等	講義	
		(4)様々な治療を受ける対象の看護	①薬物療法 ②精神療法 (C B T) ③社会療法 (作業療法、S S T) ④電気けいれん療法 ⑤その他	講義	
	2. 主な精神疾患のある対象の看護について理解できる。	(1)主な精神疾患の看護	①神経発達証の看護 ・自閉症スペクトラム ・知能能力障害 ②統合失調症の看護 ③抑うつ障害と双極性障害の看護 ④不安障害 (パニック障害) の看護 ⑤強迫性障害の看護 ⑥ストレス因関連障害 (P T S D) の看護 ⑦解離性障害の看護 ⑧身体症状症および関連症の看護 ⑨摂食障害の看護	講義	

		(2) 精神に障害のある対象の事例展開	⑩物質関連障害（アルコール、薬物）の看護 ・セルフヘルプグループの活動 ⑪パーソナリティ障害の看護 ①統合失調症の対象の事例展開	講義 演習
テキスト	「ナースング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版 「ナースング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践」 メディカ出版 「NANDA-I看護診断 定義と分類 2024・2026」 医学書院			
成績評価の方法	筆記試験100%			

分野	専門分野	授業科目	総合看護	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. チームの一員として看護を実践するための基盤を学ぶ。 2. 看護を実践し探求していくための基盤を学ぶ。			
授業のキーワード		看護管理	チーム医療	国際看護	看護研究
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 看護管理について理解する。	(1) 看護管理	①看護管理とは ②看護におけるマネジメント ③看護サービスのマネジメント ・看護の質の保障 ・人材のマネジメント ・物品・設備環境のマネジメント ・情報のマネジメント ・組織のリスクマネジメント ・看護サービスの評価	講義	
		(2) チーム医療	①看護職の責任と役割 ②多職種との連携・協働	講義	
		(3) 看護業務におけるチームワークとリーダーシップ	①組織とマネジメント ②リーダーシップ ③看護チームでの情報伝達・共有 ④看護師長の役割と業務 ⑤チームリーダーの役割と業務 ⑥チームメンバーの役割と業務	講義	
		(4) 看護職のキャリアマネジメント	①看護職のキャリア形成と成長	講義	
	2. 看護の動向と課題について理解できる。	(1) 看護の国際協力	①世界の健康問題の現状 ②国際協力の仕組み ③異文化の理解 ④多様な文化を考慮した看護	講義	
		(2) 日本での看護の課題と活動の方向性	①社会状況の変化と看護 ②看護活動に期待されるもの ③多職種との協働の中で看護の果たす役割 ④看護をめぐる倫理的ジレンマ	講義	

3. 看護研究の基礎が理解できる。	(1) 看護における研究の意味	①研究とは ②看護研究とは ③研究過程の外観	講義
	(2) 看護研究における倫理	①研究における倫理の必要性 ②研究と基本的人権 ③倫理上の原則 ④研究計画審査機構の設置	講義
	(3) 文献検討 (検索)	①文献検討 (検索) の意義 ②文献検索の資料と活用の仕方 ③文献の読み方 ④文献整理の方法	講義
	(4) 研究デザイン	①研究過程における研究デザインの位置づけ ②研究デザインの種類	講義
	(5) 論文のまとめ方	①研究計画書作成の目的と概要 ②研究計画書の作成 ③論文の作成 ④学会発表の意義	講義
テキスト	「系統看護学講座 看護研究」 医学書院 「系統看護学講座 看護の統合と実践〔1〕看護管理」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院		
成績評価の方法	筆記試験100%		

分野	専門分野	授業科目	看護医療安全	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	医療事故の現状をふまえ、リスクマネジメントの実際について学ぶ。				
授業のキーワード	医療事故 看護事故 リスクマネジメント ヒューマンエラー 事故の防止と方法				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 医療の現場におけるリスクマネジメントの基礎が理解できる。	(1) 医療安全を学ぶことの意味 (2) 医療事故防止の考え方と防止のためのシステム	①人間の特性とヒューマンエラー ②事故発生のメカニズム ①医療事故と看護業務 a) 看護業務から見る医療事故 b) 看護事故の構造 c) 看護事故防止の考え方 ②リスクマネジメントの考え方 ③医療事故の分析 a) インシデントレポートと分析 b) 事故分析の方法 ④組織としての医療安全対策 ・KYT (危険予知トレーニング) ⑤国内外の医療安全対策	講義 講義	
	2. 看護事故を自分自身に起こりうる身近な問題として捉え、その防止の方法について理解できる	(1) 看護業務に関連する事故と安全対策 (2) 医療従事者の安全と事故防止 (3) 事故防止の実際	①診療の補助業務に伴う事故防止 ・注射業務と事故防止 ・注射業務で用いる機器での事故防止 ・輸血業務と事故防止 ・内服与薬業務と事故防止 ・経管栄養注入と事故防止 ・チューブ管理と事故防止 ②療養上の世話における事故防止 ・転倒・転落事故防止 ・誤嚥事故防止 ・異食事故防止 ・入浴中の事故防止 ③事故防止のためのコミュニケーション ①感染 ②放射線被曝 ③医薬品の曝露 ④暴力 《看護事故に関するシミュレーション》	演習 講義 演習	
テキスト	「ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全」 メディカ出版				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	災害看護	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解し、災害時における看護の役割・機能と技術について学ぶ。			
授業のキーワード		災害サイクル 災害種類別の健康被害の特徴 トリアージ 心のケア			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 災害および支援体制について理解できる。	(1) 災害とは	①災害・災害看護の定義 ②災害と災害看護の歴史 ③災害の種類と健康被害の特徴 ④災害サイクル ⑤災害がおよぼす影響	講義	
		(2) 災害発生時の社会の対応・しくみ	①災害に関連する国の政策、法律、制度 ②災害時の組織体制 ③災害時の情報収集と伝達 ④災害時の連携と協働、感染症対策 ⑤わが県の支援体制	講義	
	2. 災害時における看護の役割と機能について理解できる。	(1) 災害時の看護の役割と看護活動	①配慮を必要とする人への支援 ②被災者と支援者の心理の理解と援助 ③災害サイクルに準じた看護活動 静穏期・準備期、超急性期、急性期、亜急性期、復旧復興期 ④避難所、仮設住宅、復興住宅での看護	講義	
	3. 災害時に必要な看護技術を習得できる。	(1) 災害発生時の看護	①災害時必要な看護技術 《災害発生時指示に従った行動》 《トリアージ》 《小児の心肺蘇生》 《心肺蘇生（AEDを含む）》 《救急技術（止血法、包帯法）》	講義 演習	
テキスト	「ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践 ③ 災害看護」 メディカ出版				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	臨床看護実践	担当講師		
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験		
授業の目的		臨床判断のプロセスと業務遂行のためのマネジメントについて学ぶ。				
授業のキーワード		臨床判断 多重課題 時間管理 優先順位				
時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. 臨床判断について理解できる。	(1) 臨床判断とは	①臨床推論と臨床判断 ②批判的思考と直感的思考	講義		
		(2) 臨床判断モデル	①タナーの臨床判断モデル ②臨床判断のプロセス ・気づく ・解釈する ・反応する ・省察する <臨床判断シミュレーション>	講義 演習		
	2. 業務遂行のためのマネジメントについて理解できる。	(1) 1日の業務の組み立て	①複数対象者を受け持つための情報収集・管理 ②1日のスケジュールの立案と業務時間の管理 ・スケジュールの立て方 ・業務時間の管理 ・優先順位	講義		
		(2) 多重課題への対処	①多重課題とは ②多重課題が生じる要因と影響 ③多重課題発生時の対処の原則	講義		
		(3) 複数の対象者の状況に応じた看護師の行動計画の立案	①事例を用いた行動計画立案の実際	講義 演習		
		(4) 多重課題発生時の対処の実際	①多重課題時の援助の実施 <多重課題シミュレーション>	演習		
	テキスト	「新体系 看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全」 メヂカルフレンド社 「看護学生のための臨床判断」 照林社 「看護がみえる vol.4 看護過程の展開」 メディックメディア				
	成績評価の方法	筆記試験20% レポート80%				

授業科目 基礎看護学実習 I (看護を知る実習)

時 期	1年 前期
単位 (時間)	1単位 (45時間)

目的： 様々な場における看護活動の実際を学ぶ。

学習活動	評価規準
1. オリエンテーション・見学を通して 看護師が活動する場について理解する。	1) 看護師が活動する様々な場について理解している。
2. 看護師と行動を共にし、看護活動 の実際を学ぶ。	1) 看護の対象は多職種により支えられていることを把握し、 チームの一員としての看護活動について理解している。 2) 対象の尊厳および権利を尊重し、その人らしく生活できる ように支援する看護師の活動について理解している。
3. 実習を通して看護師を目指すもの として考えを深める。	1) 看護活動における必要な能力について理解し、看護師を目 指すものとして考えを深めている。

授業科目 基礎看護学実習Ⅱ(入院生活をおくる対象の理解と日常生活援助)

時 期	1年 後期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的： 入院生活をおくる対象を理解し、日常生活援助を通して看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 日々の関わりを通し、入院生活をおくる対象者を理解する。	1) 日々の関わりを通して、対象者の状態を身体面・心理面・社会面からとらえ、対象理解を深めている。
2. 対象者に必要な援助を考え、実践する。	1) 援助の計画を考え、安全で安楽な援助を行っている。 2) 実施した援助について振り返って意味づけし、より適切な援助となるよう探求している。
3. 看護者として、対象者を尊重して関わる。	1) 対象者を尊重して関わり、関わりの場면을適切に振り返っている。
4. 看護チームの一員として、情報を共有する。	1) 看護チームの一員として、報告・連絡・相談している。

授業科目 基礎看護学実習Ⅲ(看護の展開)

時 期	2年 前期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的： 健康障害をもつ対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 日々の関わりを通し、健康障害をもつ対象者について理解する。	1) 対象者の身体面の状態について理解を深めている。 2) 対象者とその家族の心理面・社会面の状態について理解を深めている。 3) 対象者とその家族の看護上の問題を明らかにしている。
2. 健康障害をもつ対象者の状態に合わせた看護を実施する。	1) 対象者の状態に合わせた援助の計画を明らかにしている。 2) 援助の計画に基づいて、対象者の反応を確認しながら実施している。 3) 実施した看護について、事実を考察し、より対象者の状態にあわせた援助を導き出している。
3. 看護者として、対象者を尊重して関わる。	1) 対象者を尊重して関わり、関わりの場面を適切に振り返り行動している。
4. 看護チームの一員として、情報を共有する。	1) 看護チームの一員として、報告・連絡・相談している。

授業科目 地域・在宅看護論実習Ⅰ（地域で生活する人々への健康支援を学ぶ実習）

時期	2年 前期
単位(時間)	2単位(60時間)

目的：様々な生活の場における健康支援を学ぶ。

学習活動	評価規準
1. 見学や体験を通して、地域で生活する対象と、生活の場における援助について学ぶ。	1) 地域で生活する対象について、理解を深めている。 2) 地域で生活する対象に応じた援助について、理解を深めている。
2. 地域で生活する対象の特徴を考慮し、対象に応じた関わりを行う。	1) 多様な場面で対象への関わりを考えて行い、よりよい関わりについて考えを深めている。
3. 実習を通して、生活の場における健康支援について考えを深める。	1) 生活の場における健康支援について、様々な視点から考えを深めている。

授業科目 地域・在宅看護論実習Ⅱ（地域で生活・療養する人と家族の看護）

時 期	3年 前期・後期
単位（時間）	2単位（90時間）

目的：訪問看護の実際を理解し、地域で生活する人々の看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 療養者と家族について、理解を深める。	1) 療養者と家族について、在宅看護の視点から対象理解を深めている。
2. 療養者・家族の状況に応じて、訪問時の実践内容を計画し、看護を実践する。	1) 療養者・家族の状況を踏まえ、自身が実施する具体的な内容を導きだしている。 2) 療養者・家族の状態や生活環境を踏まえて、自立を尊重し、安全・安楽に援助を行っている。
3. 訪問時の状況をとらえて分析し、訪問看護における看護師の行動と判断について理解を深める。	1) 訪問時の状態や症状の変化などの事実から、対象者の身体的な状態について考察している。 2) 療養者と家族の思いを引き出す関わりや、療養生活の願いをかなえるための多職種協働について、状況を踏まえて考察している。
4. 地域の暮らしと健康を支える様々な支援や活動について、考えを深める。	1) 在宅療養者と家族を支える看護について、事実をもとに振り返り、訪問看護の役割について理解を深めている。 2) 地域で行われている活動を理解し、地域における健康支援や、社会的なつながりのあり方について考えを深めている。

授業科目 成人・高齢者看護学実習Ⅰ（成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえた看護）

時 期	2年 後期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的： 成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 日々の関わりを通し、健康障害をもつ成人期・老年期の対象者を理解する。	1) 健康障害をもつ成人期・老年期の対象者の身体面の状態について理解を深めている。 2) 健康障害をもつ成人期・老年期の対象者とその家族の心理面・社会面の状態について理解を深めている。 3) 健康障害をもつ成人期・老年期の対象者とその家族の看護上の問題を明らかにしている。
2. 健康障害をもつ成人期・老年期の対象者の状態に合わせた看護を実施する。	1) 健康障害をもつ成人期・老年期の対象者の状態に合わせた計画を明らかにしている。 2) 成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、計画に基づいて、対象者の反応を確認しながら実施している。 3) 実施した看護について、事実を考察し、より健康障害をもつ対象者の状態にあわせた援助を導き出している。
3. 看護者として、対象者を尊重してわる。	1) 対象者を尊重して関わり、関わり場面を適切に振り返り行動している。
4. 看護チームの一員として、情報を共有する。	1) 看護チームの一員として、報告・連絡・相談している。

授業科目 成人・高齢者看護学実習Ⅱ（状況の変化に合わせた看護）

時期	3年 前期
単位（時間）	2単位（90時間）

目的：成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、状況の変化に合わせた看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 日々の関わりを通し、健康障害をもつ成人期・老年期の対象を理解する。	1) 健康障害をもつ成人期・老年期の対象者の身体面の状態について理解を深めている。 2) 健康障害をもつ成人期・老年期の対象者とその家族の心理面・社会面の状態について理解を深めている。
2. 健康障害をもつ成人期・老年期の対象者の状況の変化に合わせた看護を実践する。	1) 健康障害をもつ成人期・老年期の対象者の状態に合わせた計画を明らかにしている。 2) 成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、対象者の状況の変化に合わせて反応を確認しながら実施している。 3) 実施した看護について、事実を考察し、より健康障害をもつ対象者の状態にあわせた援助を導き出している。
3. 看護者として、対象者を尊重して関わる。	1) 対象者を尊重して関わり、関わりの場면을適切に振り返り行動している。
4. 看護チームの一員として、情報を共有する。	1) 看護チームの一員として、報告・連絡・相談している。

授業科目 小児看護学実習

時期	3年 前期・後期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的：子どもとその家族を理解し、小児看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 地域で生活する障がいのある子ども・家族の特徴と支援について理解する。	1) 障がいのある子どもと家族の特徴と支援について理解を深めている。
2. 日々の関わりを通して、子ども・家族を多面的にとらえ、理解を深める。	1) 「健康障害」、「成長・発達」、「子どもと家族の思い」の視点から子どもと家族をとらえ、日々の関わりを通して、その理解を深めている。
3. 日々の関わりを通して、子どもと家族にとっての最善の看護について考え、実践する。	1) 子どもの健康障害や成長・発達、子どもと家族の思いをふまえて関わっている。 2) 自己の実践を振り返って、分析・意味づけし、子どもと家族に合わせたよりよい援助を追求している。 3) 看護のチームの一員として、情報を共有している。
4. 見学・体験・実践を通し、小児看護の役割について理解を深める。	1) 見学・体験・実践した事柄を意味づけし、小児看護の役割について理解を深めている。

授業科目 ウィメンズヘルス看護実習

時 期	3年 前期・後期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的： 周産期を中心とした、女性の健康を支える看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 日々の関わりを通し、健康状態および母児の相互関係をふまえ周産期にある対象を理解する。	1) 母体の健康状態および母体と児および家族との相互関係をふまえ、母体の理解を深めている。 2) 児の健康状態および児と母体および家族との相互関係をふまえ、児の理解を深めている。
2. 母児とその家族の状態・状況に応じた看護を実施できる。	1) 計画に基づいて母児の反応を確認しながら実施している。 2) 実施した看護について事実を考察し、日々の母児の状態・状況に応じた援助を導きだしている。 3) 看護チームの一員として、報告・連絡・相談している。 4) 母児への関わりを通し、健康の維持・増進に必要な援助を導きだしている。
3. 実習を通して、命の大切さおよび女性の健康支援に必要な看護について理解する。	1) 女性の健康の保持・増進に関する支援について理解を深めている。

授業科目 精神看護学実習

時 期	3年 前期・後期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的：精神に障害のある対象の特徴を理解し、看護を实践できる能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 日々の関わりを通し、対象者の理解を深める。	1) 対象者の理解を深めている。
2. 対象者の状況に応じた看護を实践し、振り返る。	1) 対象者の精神症状や特徴をふまえて、意図的な関わりを行っている。 2) 実施した看護および関わりと、対象者の状態について考察している。 3) 自己と対象者の関わりを振り返り、関係性の変化について考察している。
3. 療養環境の治療的意義について理解を深める。	1) 施設の環境の治療的活用と、環境としての自己について考えている。 2) 精神科のリスクマネジメントをふまえ、対象者と自分自身の安全を守る行動について理解を深めている。
4. 「地域で暮らすこと」の支援について考えを深める。	1) 精神に障害のある対象に必要な支援を考えている。

授業科目 統合実習 I (臨床判断能力)

時 期	3年 後期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的： 対象の状態・状況に応じた臨床判断に基づく看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 健康障害をもつ対象者の日々の状態や状況を把握し、対象理解をする。	1) コンテキストをふまえ、対象者の優先される情報に着目し、対象者の身体面の状態について観察（初期把握）している。 2) コンテキストをふまえ、対象者の優先される情報に着目し、対象者の心理・社会面の状態について観察（初期把握）している。
2. 対象の情報を整理し、対象者の状況を進展させ（解釈）、必要な看護を考える。	1) 対象者の情報を推論パターンをもちいて整理し、対象者の状況を進展させ（解釈）、必要な看護を考えている。
3. 解釈に基づき、対象者の状態や状況に合わせた看護を実践（反応）する。	1) 解釈に基づき、必要な看護（行為）を明らかにし、対象者の状態や状況の変化に合わせて看護を実践（反応）している。 2) 看護を省察し、次に必要な看護を明らかにしている。
4. 看護者として、対象者を尊重して関わる。	1) 対象者を尊重して関わり、関わり場面を適切に振り返り行動している。
5. 看護チームの一員として、情報を共有する。	1) 看護チームの一員として、報告・連絡・相談している。

授業科目 統合実習Ⅱ（看護の統合）

時 期	3年 後期
単位（時間）	2単位（90時間）

目的： チームの一員として協働し、臨床看護を実践するための能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 健康障害をもつ複数の対象者について、日々の状態や状況を把握し、対象を理解する。	1) 複数の対象者の状況をふまえて重要な情報や場面を考え、情報収集しながら対象理解を深めている。
2. 健康障害をもつ複数の対象者の情報を解釈・意味づけし、必要な看護を考える。	1) 複数の対象者の情報を解釈し、実践すべき看護援助を見出している。
3. 健康障害をもつ複数の対象者の状態や状況に合わせ、看護を実践（反応）する。	1) 複数の対象者に、援助技術を適切に活用し、看護を実践している。 2) 看護実践について省察を行い、自己の実践を改善するよう学んでいる。
4. 看護管理におけるリーダー役割とメンバー役割をふまえ、チームの一員として行動する。	1) 実習を通してメンバー役割への理解を深め、チームの一員として必要な行動をとっている。

IX. 事例のマトリックス

IX. 事例のマトリックス

領域	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	成人看護学
講義時期	1年次・後期	2年次・後期	2年次・前期	2年次・前期
発達段階・性	老年期・男性	老年期・男性	中年期・男性	中年期・女性
疾患	細菌性肺炎	脳梗塞後遺症	急性心筋梗塞	脳梗塞
疾病の経過	回復期	慢性期	急性期	回復期
症状	呼吸困難 分泌物増加 咳嗽	左片麻痺(不全麻痺) 運動障害 嚥下障害 言語障害	胸痛 脂質異常症	高血圧 脂質異常症 運動機能障害 感覚障害
治療・処置	薬物療法 安静療法	薬物療法 理学療法 経管栄養(胃瘻)	経皮的冠状動脈インター ベーション 安静療法 薬物療法(内服・輸液)	理学療法 薬物療法(内服)

成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学
2年次・後期	2年次・後期	2年次・後期	2年次・後期	2年次・後期
中年期・男性	老年期・女性	幼児期・男児	壮年期・女性(初産婦)	壮年期・女性
糖尿病	大腿骨頸部骨折	気管支喘息	正常分娩	統合失調症
慢性期	急性期～回復期	急性期	産褥期・新生児期	慢性期
高血糖	術後せん妄	不機嫌	産褥期 新生児期 <生理的变化> <生理的变化>	意欲低下
脂質異常症	脱臼	呼吸困難	子宮底の変化 体重減少	関心の低下
糖尿病神経障害	認知症	咳嗽	悪露の変化 黄疸	幻覚(幻聴)
		喘鳴	乳汁分泌	妄想
			心理的变化	認知機能障害
食事療法	手術療法	薬物療法 (輸液・吸入・内服)		薬物療法(内服薬)
薬物療法(インスリン・内服)	理学療法			社会療法
運動療法				精神療法
簡易血糖測定				

X. 看護技術の

マトリックス

X. 看護技術のマトリックス

項目	技術の種類	卒業時の到達度		領域	基礎分野 専門基礎分野	基礎看護学	地域・在宅看護論
		演習	実習				
1 環境調整技術	1 快適な療養環境の整備	I	I	基礎 地・在		演習 環境整備	講義
	2 臥床患者のリネン交換	I	II	基礎		演習 ベッドメーカーキング 寝衣リネン交換	
2 食事の援助技術	3 食事介助(嚥下障害のある患者を除く)	I	I	基礎 老年		演習 食事介助	
	4 食事指導	II	II	成人			
	5 経管栄養法による流動食の注入	I	II	地・在			演習 経管栄養法(経鼻・胃瘻)
	6 経鼻胃チューブの挿入	I	III	地・在		講義	演習 経管栄養法(経鼻)
3 排泄援助技術	7 排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)	I	II	基礎 老年		演習 便・尿器の使い方 ポータブルトイレでの排泄介 助	
	8 膀胱留置カテーテルの管理	I	III	基礎 地・在		演習 膀胱留置カテーテルの管理	講義
	9 導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入	II	III	基礎		演習 導尿	
	10 浣腸	I	III	基礎 地・在		演習 浣腸	
	11 摘便	I	III	老年			
	12 ストーマ管理	II	III	地・在			演習
4 活動・休息援助 技術	13 車椅子での移送	I	I	基礎		演習 車椅子の移乗・移送	
	14 歩行・移動介助	I	I	基礎		演習 歩行・移動介助	
	15 移乗介助	I	II	基礎 地・在		演習 車椅子・ストレッチャーの移 乗	演習 福祉用具を使用した移乗
	16 体位変換・保持	I	I	基礎 地・在		演習 体位変換	演習 福祉用具を使用した体位 変換
	17 自動・他動運動の援助	I	II	基礎		演習 関節可動域の測定	
	18 ストレッチャー移送	I	II	基礎		演習 ストレッチャーの移送	
5 清潔・衣生活 援助技術	19 足浴・手浴	I	I	基礎 地・在		演習 手浴、足浴	
	20 整容	I	I	基礎		講義	
	21 点滴・ドレーン等を留置していない患者の 寝衣交換	I	I	基礎		演習 寝衣交換	
	22 入浴・シャワー浴の介助	I	II	基礎 地・在		講義	演習 在宅における入浴介助
	23 陰部の保清	I	II	基礎 地・在		演習 陰部洗浄	演習 在宅における陰部洗浄
	24 清拭	I	II	基礎		演習 清拭	
	25 洗髪	I	II	基礎 地・在		演習 洗髪	演習 在宅における洗髪
	26 口腔ケア	I	II	基礎 地・在		演習 口腔ケア	
	27 点滴・ドレーン等を留置している患者の 寝衣交換	I	II	成人			
	28 新生児の沐浴・清拭	I	III	母性			
6 呼吸循環を 整える技術	29 体温調整の援助	I	I	基礎		講義	
	30 酸素吸入療法の実施	I	II	基礎 小児		演習 酸素吸入	
	31 ネブライザーを用いた気道内加湿	I	II	基礎 小児		演習 吸入	
	32 口腔内・鼻腔内吸引	II	III	基礎		演習 口腔内・鼻腔内吸引	
	33 気管内吸引	II	III	基礎		演習 気管内吸引	
	34 体位ドレナージ	I	III	成人			
7 創傷管理技術	35 褥瘡予防ケア	II	II	基礎 地・在		講義	演習 褥瘡予防
	36 創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)	II	II	基礎 成人		演習 包帯法	
	37 ドレーン類の挿入部の処置	II	III	成人			

	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	
1	1						
	2						
2	3		講義				
	4	講義					
	5						
	6						
3	7		演習 オムツ交換				
	8						
	9						
	10						
	11		演習 摘便				
	12						
4	13						
	14	講義	運動麻痺のある対象の移動				
	15	講義	運動麻痺のある対象の移乗				
	16						
	17						
	18						
5	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27	演習	点滴を留置している患者の 寝衣交換				
	28				演習 沐浴		
6	29						
	30			講義			
	31			演習 吸入療法			
	32						
	33						
	34	演習	体位ドレナージ				
	35						
7	36	演習	創傷処置				
	37	講義					

項目	技術の種類	卒業時の到達度		領域	基礎分野 専門基礎分野	基礎看護学	地域・在宅看護論
		演習	実習				
8 与薬の技術	38 経口薬(パッカル錠、内服薬、舌下錠)の投与	II	II	基礎 小児 精神		講義	
	39 経皮・外用薬の投与	I	II	基礎		講義	
	40 坐薬の投与	II	II	基礎		演習 直腸内与薬	
	41 皮下注射	II	III	基礎		演習 皮下注射	
	42 筋肉内注射	II	III	基礎		演習 筋肉注射	
	43 静脈路確保・点滴静脈内注射	II	III	基礎		演習 点滴静脈内注射	
	44 点滴静脈内注射の管理	II	II	基礎 小児		講義	
	45 薬剤等の管理(毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む)	II	III	基礎		講義	
46 輸血の管理	II	III	基礎		講義		
9 救命救急処置技術	47 緊急時の応援要請	I	I	統合			
	48 一次救命処置(Basic Life Support:BLS)	I	I	統合			
	49 止血法の実施	I	III	統合			
10 症状・生体機能管理技術	50 バイタルサインの測定	I	I	基礎 小児 母性		演習 バイタルサインの測定	
	51 身体計測	I	I	基礎 小児 母性		講義	
	52 フィジカルアセスメント	I	II	基礎		演習 フィジカルイグザム	
	53 検体(尿、血液等)の取り扱い	I	II	基礎 小児		講義	
	54 簡易血糖測定	II	II	成人			
	55 静脈血採血	II	III	基礎		演習 静脈内採血	
56 検査の介助	I	II	基礎 小児		講義		
11 感染予防技術	57 スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗い	I	I	基礎		演習 手洗い	
	58 必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱	I	I	基礎		演習 手袋・エプロンの装着	
	59 使用した器具の感染防止の取り扱い	I	II	基礎		演習 (針を使う技術)	
	60 感染性廃棄物の取り扱い	I	II	基礎		演習 (針を使う技術)	
	61 無菌操作	I	II	基礎		演習 無菌操作	
	62 針刺し事故の防止・事故後の対応	I	II	基礎 統合		講義	
12 安全管理の技術	63 インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	I	I	統合			
	64 患者の誤認防止策の実施	I	I	基礎 統合		講義	
	65 安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)	I	II	基礎 小児 統合		演習 各基礎看護技術演習	
	66 放射線の被ばく防止策の実施	I	I	基礎 統合		講義	
	67 人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施	II	III	基礎 統合		講義	
	68 医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等)の操作・管理	II	III	基礎		演習 医療機器の操作	
13 安楽確保の技術	69 安楽な体位の調整	I	II	基礎		演習 体位変換	
	70 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	I	II	基礎		演習 体位変換	
	71 精神的安寧を保つためのケア	I	II	基礎 精神		講義	

	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	
8	38		演習 与薬方法		講義		
	39						
	40						
	41						
	42						
	43						
	44			演習 輸液管理			
	45						
	46						
9	47					演習 災害発生時指示に従った行動	
	48					演習 心肺蘇生・AED	
	49					演習 救急技術(止血法、包帯法)	
10	50		講義	演習 バイタルサイン測定(新生児)			
	51		講義	講義			
	52	演習 肺切除術後の観察					
	53		講義				
	54	演習 簡易血糖測定					
	55						
	56			演習 骨髄穿刺・腰椎穿刺			
11	57						
	58						
	59						
	60						
	61						
	62					講義	
12	63					講義	
	64					講義	
	65			講義		講義	
	66					講義	
	67					講義	
	68						
13	69						
	70						
	71				講義		

※この表の「項目」は厚生労働省より通知された『看護師教育の技術項目と卒業時の到達度』で出された内容を明示している。

<演習>

- I：モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる
- II：モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる

<実習>

- I：単独で実施できる
- II：指導の下で実施できる
- III：実施が困難な場合は見学する

刊行物名 看護学科教育計画
発行者 滋賀県立総合保健専門学校
〒524-0022
守山市守山五丁目 4 番 10 号
TEL 077-583-4147
FAX 077-583-8722
発行日 令和 7 年 (2025 年) 4 月